

平成 28 年 度

北海道立総合研究機構
道南農業試験場年報

平成 29 年 9 月

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

資料の取り扱い

本資料掲載の研究成績等については未公開のものであるため、複製、転載及び

引用に当たっては、必ず原著者の了承を得た上で利用して下さい。

平成 28 年 度

北海道立総合研究機構 道南農業試験場年報

目 次

I 概 要	1
1. 沿 革	1
2. 位置及び土壌	1
3. 面積及び利用区分	2
4. 機 構	2
5. 職員の配置	3
6. 職 員	3
7. 歳入決算額	4
8. 歳出決算額	4
9. 建 物	5
10. 新たに購入した備品	5
II 作 況	6
1. 気象概況	6
2. 当該作況	9
III 試験研究及び地域支援活動	11
1. 試験研究・地域支援の概要	11
(1)生産環境グループ(栽培環境)	11
(2)生産環境グループ(病虫)	11
(3)地域技術グループ(作物)	11
(4)地域技術グループ(地域支援)	11
2. 試験研究・地域支援の内容	13
(1)生産環境グループ(栽培環境)	13
(2)生産環境グループ(病虫)	13
(3)地域技術グループ(作物)	14
(4)地域技術グループ(地域支援)	15
3. 道南地域農業技術支援会議の活動	16
4. 平成28年度普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項	17
5. 論文ならびに資料	18
(1)研究論文	18
(2)口頭発表	19
(3)専門雑誌、著書・資料	20
(4)新聞記事	20
6. 印刷刊行物	21
7. 技術指導・技術相談	21

IV	その他の活動	24
1.	職員研修	24
2.	研修生の受け入れ	24
3.	参観	25
4.	主催事業等	25
5.	マスコミ対応	27
6.	委員会活動	28
7.	場内研修	30
8.	表彰・資格	30
9.	外部委員会等への参加	31
V	自己点検	33
1.	平成28年度計画に係る項目別実績の自己点検結果	33
	付表1. 作物標準栽培法の概要	36
	付表2. 土壌の理化学的特性	37

I 概 要

1. 沿革

(1) 戦前

道南農業試験場は、明治42年、亀田郡大野村（現在の北斗市）に北海道庁立渡島農事試験場（総面積9.85haの内、畑0.46ha、水田0.40ha）として開設された。翌43年には北海道拓殖計画に基づく農業試験機関の統合により国に移管され、北海道農事試験場渡島支場と改称、水稻、麦類及び豆類などの試験に着手した。

明治44年には果樹（りんご、なし類、おうとう、ぶどう及びもも）の栽培を開始した。さらに、大正7年からは水稻品種改良に純系分離育種法を取り入れるなど、道南地方の自然条件に適合する稲作、畑作及び園芸の試験研究を推し進めた。その間、水稻、大豆などで多くの優良品種を育成するとともに農業経営方式の確立に努め、地域農業の発展に貢献した。昭和17年には北海道農業試験場渡島支場と改称した。

(2) 戦後

昭和25年、全国農業試験研究機関の整備統合により従来の機関は国立、道立に二分され、当時は道費支弁の北海道立農業試験場渡島支場となった。昭和28年、大野町字向野に用地3haを買収して果樹園を移設し、さらに昭和36年からは庁舎、調査室及び作業室等施設の整備拡充計画を推進した。

昭和39年、道立農業試験場の機構改革により北海道立道南農業試験場と改称した。昭和46年には、施設園芸の近代的推進の中核的役割を果たす農業者及び技術指導者などを養成する目的で施設園芸の研修施設としては道内最大のプラスチックハウス（約0.1ha）を設置した。さらに昭和56、57年にはコンピューター制御による環境制御温室と地温制御温室の完成を見ている。昭和62年には全国的な「農業試験研究情報システム」整備の一環として情報処理室を設置し、道立農業試験場各場間を結ぶ情報ネットワーク（HARIS）が整備された。その結果、各種農業情報や研究情報などの有効利用が促進されることとなった。

平成元年、完全自動化された花き省エネ栽培温室を設置し、同3年には植物馴化装置（3連グロースキャビネット）を導入し、翌年には米の食味分析計を整備した。なお、果樹試験は、研究基本計画に基づく機構改正により平成4年3月31日をもって道立中央農業試験場に統合された。

平成6年、前年の大冷害の経験から冷水田の整備が行われ、水稻品種の耐冷性強化のための新たな施設が完成した。平成7年には、庁舎の増改築が行われ高精度実験室や50人規模の会議室が新設されたほか、専技室に技術相談室が整備された。

平成12年、水稻優良品種開発施設として稲の世代促進を目的とした年3期作が可能な水田温室と管理棟が完成し、13年から本格的な品種開発試験を開始した。

また、平成12年の研究科の再編統合に伴い、機動的な研究体制とするために、園芸科と土壤肥料科が統合され、「園芸環境科」が誕生した。さらに、専門技術員室は専技と研究職の次長からなる、研究成果の実証・体系化を行う「技術普及部」に改組され、研究部（園芸環境科、病虫科、作物科、管理科）とあわせて2部体制が敷かれた。

その後、本道農業を巡る情勢の変化に伴い平成18年より道南圏（渡島、檜山）における園芸を主とした地域対応研究に特化した場と位置づけられ、水稻、いちごの育種担当場から品種開発支援場となった。同時に組織の再編も行われ、研究部は、作物、栽培環境、病虫および管理科の4科となった。一方、技術普及部には部長以下、次長、主任普及指導員（旧主任専技）、地域支援の主査が配置された。

(3) 独法後

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、これまでの北海道立道南農業試験場は、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部道南農業試験場に改組された。研究部は地域技術、生産環境グループの2グループ制となり、2研究主幹ならびに主査(作物)、主査(栽培環境)、主査(病虫)および主査(地域支援)が配置された。普及指導員は、北海道農政生産振興局技術普及課の道南農試在勤技術普及室として配置されることになり、上席普及指導員、主任普及指導員および主査(地域支援)の3名体制となった。旧技術普及部の普及センター等関係機関に対する地域支援業務は、技術普及室の3普及指導員および地域技術グループ研究主幹、主査(地域支援)により対応することとなった。28年には、新しく育苗ガラス温室を整備した

2. 位置及び土壌

当該（北斗市本町680番地）は、北緯41° 53′、東経140° 39′、海拔25mに位置し、JR函館本線新函館北斗駅から南に3km、函館市の北約20kmのところにある。地形は平坦で、土壌は褐色低地土（河成沖積）に分類される。水田土壌は腐植を含む埴壤土（減水深30～40mm/日）である。40～50cm以下は砂礫層となっている。作土の粘着性、可塑性がやや強く、硬度（ち密度）は約18mm、鋤床層で約22mmである。斑鉄は作土でやや少なく、鋤床層でやや多い。マンガン斑は作土、鋤床

層ともに観察されない。なお、作土深は12cm余、鋤床層は8～15cmでやや厚い。

一方、畑地では表層に腐植を含む壤土が分布しており、次層は壤土～砂壤土、50～70cm以下は礫にすこぶる富む砂壤土～礫層となっている。構造は不鮮明であるが、孔隙がやや発達し、保水性は中庸で、粘着性、可塑性がやや強い。全般に膨軟で礫層の深い所まで根が分布している。

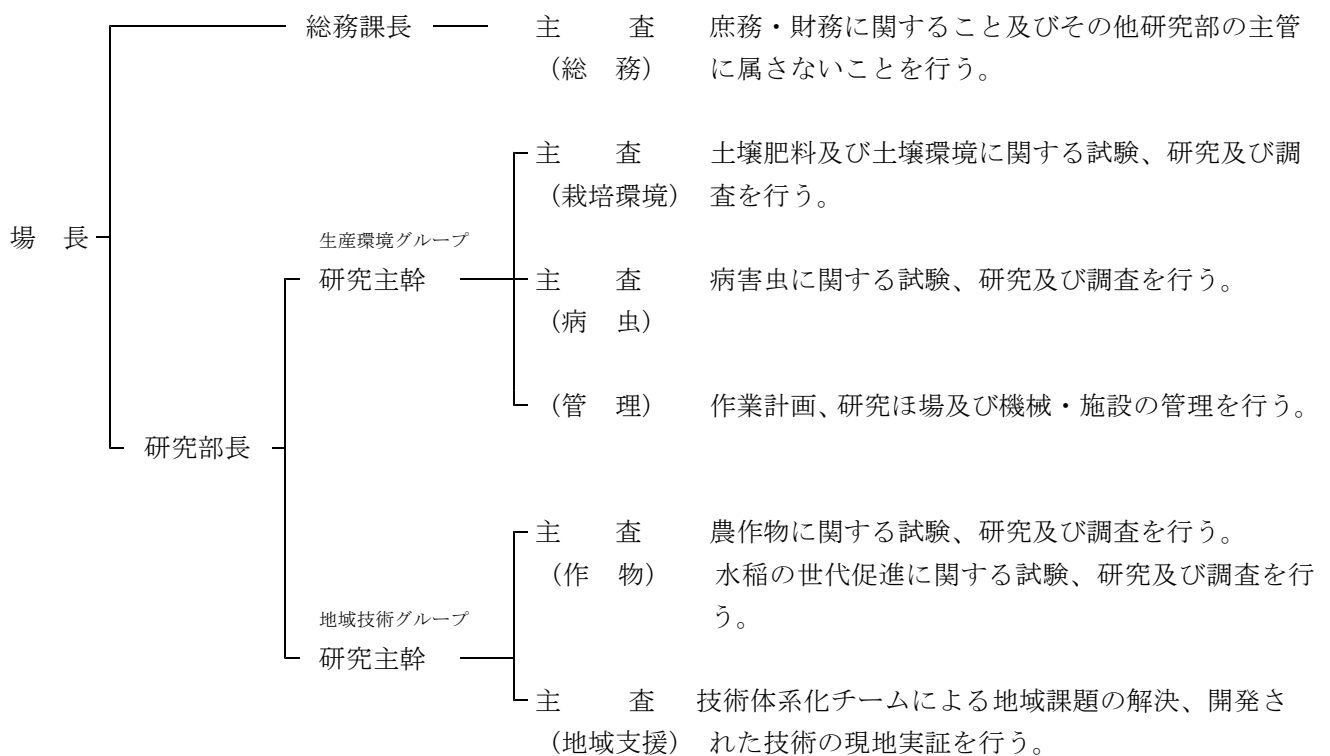
3. 面積及び利用区分

総面積		127,202 m ²	
区 分	面 積	区 分	面 積
構 内 建 物 用 地	20,372m ²	試 験 ほ 場 （ 畑 ）	37,290m ²
道 路	10,530	〃 （緑地管理）	24,715
防 風 林	2,170	そ の 他	17,125
試 験 ほ 場 （ 田 ）	15,000	計	127,202

※借地も含む。

4. 機 構

（平成29年3月31日現在）



(参考)

技術普及室（北海道農政部技術普及課、道南農試に常駐）

5. 職員の配置

（平成29年3月31日現在）

	場 長	研究 部長	研究 主幹	総務課		裁 培 環 境	病 虫	管 理	作 物	地 域 支 援	計
				課 長	総 務						
研 究 職	1	1	2			1	3		3	1	12
行 政 職				1	3						4
研究支援職								3			3
計	1	1	2	1	3	1	3	3	3	1	19

6. 職 員

(1) 現在員

（平成29年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
場 長	加 藤 淳	研究主幹	中 住 晴 彦
研究部長	丹 野 久	主査(作物)	尾 崎 洋 人
研究主幹	日 笠 裕 治	研究主任	田 澤 暁 子
主査(栽培環境)	奥 村 理	〃	高 濱 雅 幹
主査(病虫)	青 木 元 彦	主査(地域支援)	林 哲 央
研究主査	角 野 晶 大	総務課長	小 滝 宏 樹
研究主任	三 澤 知 央	主査(総務)	渋 谷 美 香 子
主 任	佐々木 盛 久	主 任	石 黒 一 幸
主 任	竹 内 達 哉	主 任	中 村 圭 志
技 師	順 西 奈 緒	計	19名

(2) 転入者及び新規採用者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
場 長	加藤 淳	28. 4. 1	農業研究本部から	研究主査	大久保進一	28. 4. 1	花・野菜技術センターから
主査(作物)	尾崎洋人	28. 4. 1	中央農試から	技 師	順西奈緒	28. 4. 1	新規採用
研究主査	角野晶大	28. 4. 1	花・野菜技術センターから				

(3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令月日	摘 要	職 名	氏 名	発令月日	摘 要
研究主査	上野 達	28. 3. 31	原子力環境センターへ	研究主査	大久保進一	28. 11. 1	農業研究本部へ
主査(病虫)	美濃健一	28. 4. 1	花・野菜技術センターへ	場 長	田中文夫	28. 3. 31	退職
主査(作物)	宗形信也	28. 4. 1	中央農試へ	指導主任	田村正貴	28. 3. 31	退職
研究主任	植野玲一郎	28. 4. 1	花・野菜技術センターへ				

7. 歳入決算額

(単位：円)

予 算 科 目	決 算 額	備 考
依頼試験手数料等	0	
農産物売払収入	843,720	
法人財産使用料等	282,892	
国庫受託研究収入	2,025,000	
道受託研究収入	1,050,000	
その他受託研究収入	9,210,000	
施設整備費補助金収入	0	
合 計	13,411,612	

8. 歳出決算額

(単位：円)

予 算 科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
業 務 費			
重点研究費	4,237,038	4,237,038	
経常研究費	11,249,000	11,236,867	
技術普及指導費	222,000	221,900	
研究用備品整備費	4,789,908	4,789,908	
維持管理経費（研究）	725,000	725,000	
一般管理費			
維持管理経費	25,331,000	25,329,435	
運営経費	18,659,000	18,658,685	
受託研究等経費			
国庫受託研究費	1,872,000	1,872,000	
道受託研究費	1,050,000	1,050,000	
その他受託研究費	8,716,000	8,716,000	
補助金			
施設整備費補助金	0	0	
繰越積立金			
施設整備費（繰越積立金）	77,149,000	77,146,640	
重点研究費（繰越積立金）	0	0	
合 計	153,999,946	153,983,473	

※事業費支弁人件費振替額を除く

9. 建 物

(1) 公用財産

	本 町			向 野		
	棟数	面積(m ²)	建築年次	棟数	面積(m ²)	建築年次
庁 舎	1	969.12	S36			
記念館	1	132.23	T 8			
ポンプ室	1	6.48	S44			
調査室	1	165.25	S44			
物品庫	1	66.11	S45			
燃料費	1	8.30	S45			
ポンプ小屋	1	9.88	S45			
便所	1	9.72	S26			
ガス格納庫	1	4.95	S49			
環境制御温室	1	534.15	S56			
総合倉庫	1	133.85	S58			
管理科兼土壌実験室	1	197.35	S59			
車庫	1	100.75	S60			
果樹品質調査室				1	66.42	S63
花き省エネ栽培温室	1	655.92	H 1			
農機具格納庫	1	350.00	H 2			
作業室	1	145.74	H 3			
昆虫飼育実験室	1	106.92	H 4			
土壌病害虫総合実験温室	1	275.04	H 5			
便所	1	6.62	H 5			
揚水舎	1	3.31	H 7			
ポンプ室				1	2.25	S42
農業資材倉庫	1	243.00	H 9			
水田温室	1	2,340.00	H10			
運搬車用車庫	1	86.49	H15			
育苗ガラス温室	1	252.00	H28			
計	24	6,803.18		2	68.67	

10. 新たに設置した主要施設及び備品

(単価50万円以上、単位：円)

品 名	規 格	数量	金 額	備 考
育苗ガラス温室	252.00 m ²	1	74,174,400	旧1号、2号温室の改築
高圧蒸気滅菌器	MLS - 3751 - PJ	1	642,708	
高圧温水洗浄機	AW - 1100F	1	513,000	
人工気象器	クローズド型LH - 411SP	2	2,954,880	

Ⅱ 作 況

1. 気象概況

平年に比べ根雪初日は9日遅く、根雪終日は同日、根雪期間は平年より9日短かった。また、耕鋤始は6日早く、晩霜は1日遅かった。

4月： 平均気温は1.2℃、最高気温は1.2℃、最低気温は1.1℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より15.3mm少なく、平年の80%であった。日照時間は15.9時間少なく、同91%であった。

5月： 平均気温は2.3℃、最高気温は2.9℃、最低気温は1.4℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より35.4mm少なく、平年の60%であった。日照時間は46.4時間多く、同125%であった。

6月： 平均気温は0.3℃、最高気温は1.0℃平年に比べそれぞれ低く、最低気温は0.1℃高かった。降水量は平年より68.7mm多く、平年の205%であった。日照時間は24.1時間少なく、同86%であった。

7月： 平均気温は0.2℃、最高気温は0.3℃平年に比べそれぞれ低く、最低気温は0.1℃高かった。降水量は平年より40.4mm多く、平年の130%であった。日照時間は16.7時間多く、同114%であった。

8月： 平均気温は0.8℃、最高気温は1.1℃、最低気温は0.5℃平年に比べそれぞれ高かった。降水量は平年より10.3mm多く、平年の107%であった。日照時間は56.7時間多く、同139%であった。

9月： 平均気温は0.6℃、最低気温は1.6℃平年に比べそれぞれ高く、最高気温は同等だった。降水量は平年より2.1mm多く、平年の102%であった。日照時間は19.0時間少なく、同88%であった。

10月： 平均気温は1.7℃、最高気温は1.4℃、最低気温は2.1℃平年に比べそれぞれ低かった。降水量は平年より60.4mm少なく、平年の47%であった。日照時間は7.8時間多く、同105%であった。

本年の初霜は10月15日で平年より6日早く、初雪は10月30日で平年より10日早かった。

" 以上、農耕期間の気象についてまとめると、平年に比べ気温は、5月は高温、6月～7月は概ね平年並だが6月中旬は最高気温が低く、8月～9月は高温傾向で、10月に入って低温に転じた。

降水量は、5月中下旬、8月上旬、9月中旬以降は平年を大きく下回ったが、8月下旬～9月上旬には台風および秋雨前線の影響により多かった。

日照時間は全体としては平年より多かったが、6月中旬は平年の43%と少なかった。

5月から9月の積算では、平年に比べ平均気温では102℃高く平年の104%、降水量は86mm多く同116%、日照時間は77時間多く同110%であった。"

季節調査(年.月.日)

区別	根雪初日	根雪終日	降雪終日	耕鋤始	晩霜	初霜	降雪初日
本年	H27.12.25	H28.3.12	H28.4.11	H28.4.4	H28.5.1	H28.10.15	H28.10.30
平年	12.16	3.12	4.12	4.10	5.2	10.21	11.9
比較	9	0	▲1	▲6	▲1	▲6	▲10

注1) 函館海洋气象台(函館市美原)の観測値を使用した。平年値は前10か年の観測値を使用して道南農試で作成。

注2) 耕鋤はじめは農試データ。

注3) 表中▲は「早」を示す。

農耕期間積算値(5～9月)

区別	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)
本年	2808	638	859
平年	2706	552	782
比較	102	86	77

注) 本年値は北斗市のアメダスデータを使用し農試で作成。平年値は前10か年の北斗市のアメダスデータを使用し農試で作成。

気象表（平成28年）

月旬	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4上	6.2	4.8	1.4	11.2	9.6	1.6	1.0	0.0	1.0	16.5	17.4	▲ 0.9	58.0	56.8	1.2
中	7.2	6.2	1.0	11.3	11.3	0.0	3.0	1.3	1.7	28.5	23.4	5.1	35.2	59.5	▲ 24.3
下	8.8	8.3	0.5	13.9	13.4	0.5	3.3	3.2	0.1	16.0	29.0	▲ 13.0	65.1	58.4	6.7
5上	11.6	10.0	1.6	16.3	15.4	0.9	6.7	4.9	1.8	28.5	33.1	▲ 4.6	54.3	62.5	▲ 8.2
中	13.6	11.2	2.4	19.3	16.1	3.2	7.9	6.4	1.5	16.0	23.3	▲ 7.3	95.6	56.7	38.9
下	16.2	12.7	3.5	22.0	17.6	4.4	10.4	8.3	2.1	9.5	28.4	▲ 18.9	84.0	66.9	17.1
6上	14.7	14.1	0.6	19.0	18.7	0.3	10.4	9.9	0.5	30.5	23.5	7.0	67.4	56.5	10.9
中	16.1	15.4	0.7	19.1	19.9	▲ 0.8	13.4	11.4	2.0	71.5	28.1	43.4	20.7	52.9	▲ 32.2
下	16.9	16.8	0.1	21.1	21.1	0.0	13.6	13.0	0.6	32.0	21.4	10.6	57.2	51.1	6.1
7上	18.6	17.8	0.8	22.2	21.9	0.3	15.5	14.4	1.1	59.5	42.9	16.6	49.3	38.1	11.2
中	19.6	19.0	0.6	23.4	22.9	0.5	16.5	15.9	0.6	30.5	45.5	▲ 15.0	52.4	38.0	14.4
下	21.3	20.7	0.6	25.0	24.8	0.2	18.5	17.4	1.1	83.0	48.2	34.8	35.9	45.8	▲ 9.9
8上	23.9	21.8	2.1	28.8	26.1	2.7	19.9	18.3	1.6	0.0	49.5	▲ 49.5	82.6	46.2	36.4
中	22.9	21.4	1.5	27.4	25.7	1.7	18.9	17.9	1.0	46.0	40.3	5.7	65.3	40.6	24.7
下	22.3	20.8	1.5	26.7	25.2	1.5	18.2	17.0	1.2	102.0	72.4	29.6	52.8	50.9	1.9
9上	21.4	19.5	1.9	24.7	24.1	0.6	19.0	15.3	3.7	93.0	58.3	34.7	34.5	49.1	▲ 14.6
中	18.0	17.6	0.4	22.5	22.6	▲ 0.1	14.3	12.9	1.4	8.5	42.4	▲ 33.9	51.9	48.0	3.9
下	17.7	15.5	2.2	22.6	20.7	1.9	12.5	10.5	2.0	27.5	50.4	▲ 22.9	54.9	53.6	1.3
10上	13.4	13.5	▲ 0.1	18.8	18.6	0.2	7.7	8.5	▲ 0.8	31.0	40.9	▲ 9.9	58.8	47.5	11.3
中	10.4	11.3	▲ 0.9	16.6	16.7	▲ 0.1	4.2	6.0	▲ 1.8	11.5	39.0	▲ 27.5	61.9	53.5	8.4
下	6.2	8.9	▲ 2.7	11.0	14.2	▲ 3.2	1.3	3.9	▲ 2.6	10.0	29.3	▲ 19.3	41.0	50.3	▲ 9.3

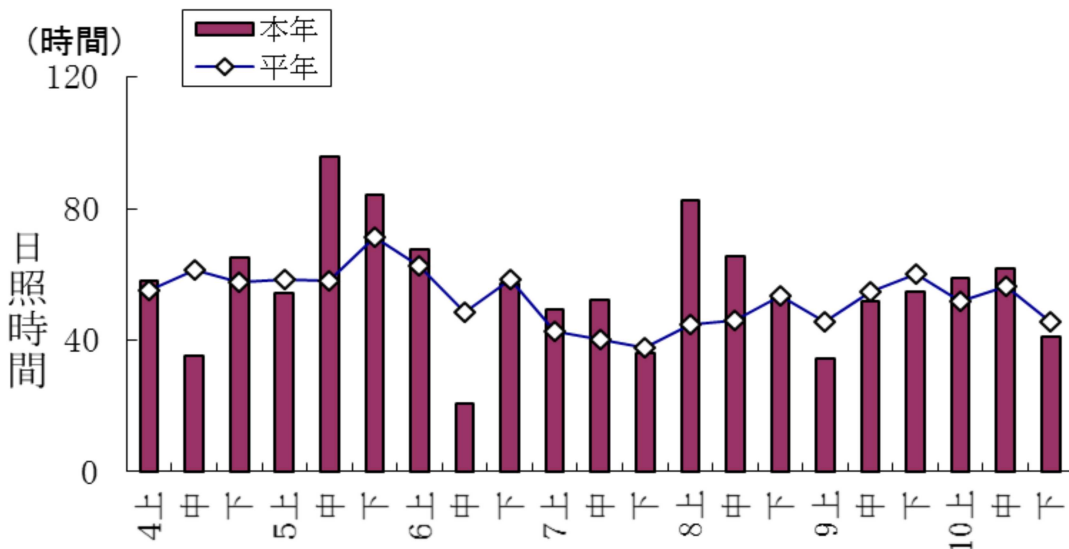
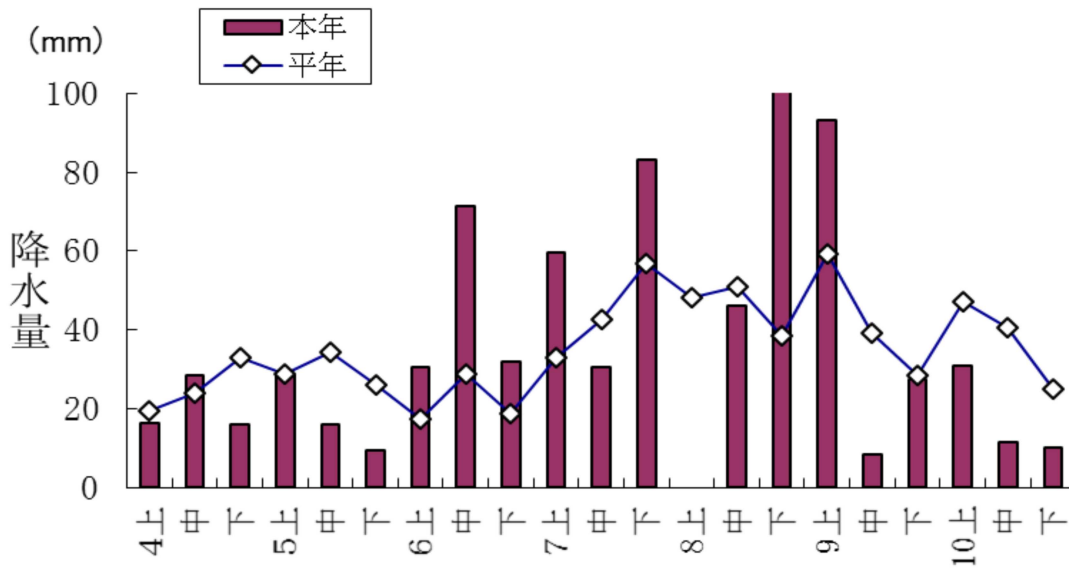
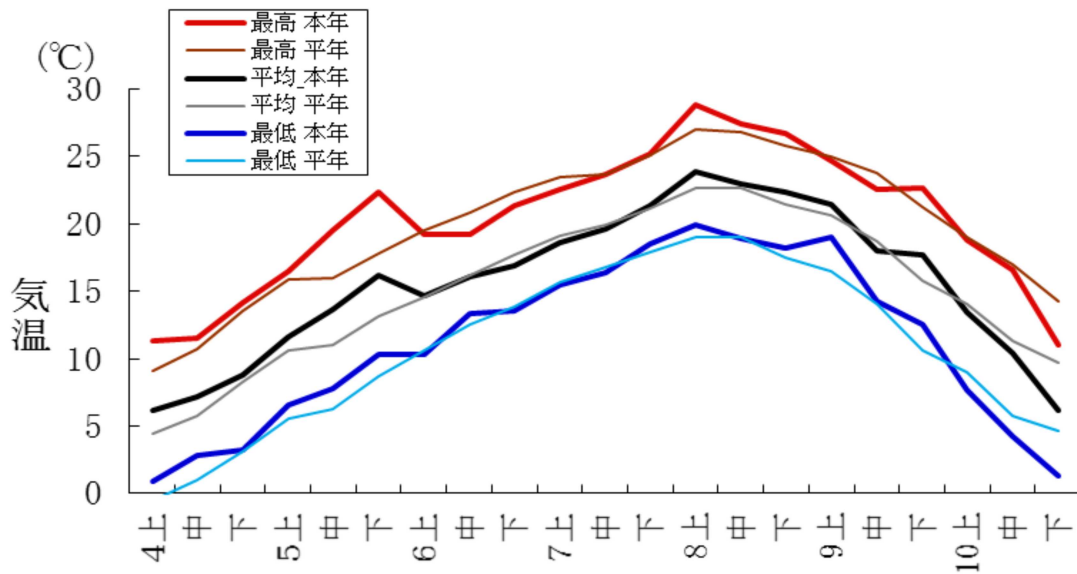
月	平均気温 (°C)			最高気温 (°C)			最低気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (時間)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4月	7.4	6.4	1.0	12.1	11.4	0.7	2.4	1.5	0.9	61.0	69.8	▲ 8.8	158.3	174.7	▲ 16.4
5月	13.9	11.3	2.6	19.3	16.4	2.9	8.4	6.6	1.8	54.0	84.8	▲ 30.8	233.9	186.1	47.8
6月	15.9	15.4	0.5	19.7	19.9	▲ 0.2	12.5	11.4	1.1	134.0	73.0	61.0	145.3	160.5	▲ 15.2
7月	19.9	19.2	0.7	23.6	23.3	0.3	16.9	15.9	1.0	173.0	136.6	36.4	137.6	121.9	15.7
8月	23.0	21.3	1.7	27.6	25.7	1.9	19.0	17.7	1.3	148.0	162.2	▲ 14.2	200.7	137.7	63.0
9月	19.0	17.5	1.5	23.3	22.5	0.8	15.3	12.9	2.4	129.0	151.1	▲ 22.1	141.3	150.7	▲ 9.4
10月	9.9	11.2	▲ 1.3	15.3	16.4	▲ 1.1	4.3	6.1	▲ 1.8	52.5	109.2	▲ 56.7	161.7	151.3	10.4

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータを使用、平年値はてん蔵から。

注2) 「平均または合計」欄では、気温は平均を、降水量、日照時間は合計を道南農試で作成。

注3) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

気象図 (平成 28 年)



2. 当該作況

水 稲 平年並

播種は平年より3日遅い4月22日に行った。出芽までの日数は平年並で、移植時の苗の形質は、草丈は平年を上回ったが、莖数、葉数および乾物重は概ね平年並だった。

移植は平年より1日早い5月20日に行った。移植直後は天候に恵まれたため、活着と初期生育は順調であったが、6月中旬以降は降雨が多く、日照不足により生育は停滞した。平年と比較して、幼穂形成期は4～6日、止葉期は5～8日、出穂期は5～9日遅かった。草丈は、本田初期は平年より長かったが、7月以降は短く推移した。莖数は、6月は平年を下回ったものの、その後は平年より多く推移した。主稈葉数も、全生育期間で平年並からやや上回り、止葉葉数は平年よりやや多かった。出穂前後は高温に経過し、出穂と

開花は順調だった。8月30日の台風による降雨と強風により、品種により倒伏が発生した。8月～9月の高温傾向により登熟は順調に進み、平年と比較して成熟期は2～4日遅く、登熟日数は2～5日短かった。

平年と比較して成熟期の稈長と穂長はやや短く、 m^2 あたり穂数は10～18%多く、一穂粒数は15～18%少なく、 m^2 あたり粒数はやや少なかった。稔実歩合は平年よりわずかに高く、登熟歩合は6～15%高かったため、 m^2 あたり登熟粒数は平年をやや上回った。

精玄米千粒重は平年をやや下回り、屑米歩合は低く、収量は「きらら397」で平年比102%の57.4kg/a、「ふっくりんこ」で同101%の56.8kg/a、「ななつぼし」で同99%の57.1kg/aであった。

なお、検査等級は、一部で青未熟粒や心白、腹白でわずかに等級を落としたものの、平年並からやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

生育及び収量調査成績（平成28年）

項 目	きらら397			ふっくりんこ			ななつぼし			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播 種 期 (月日)	4.22	4.19	3	4.22	4.19	3	4.22	4.19	3	
出 芽 期 (月日)	4.28	4.25	3	4.28	4.25	3	4.28	4.26	2	
移 植 期 (月日)	5.20	5.21	▲ 1	5.20	5.21	▲ 1	5.20	5.21	▲ 1	
幼 穂 形 成 期 (月日)	7.03	6.29	4	7.08	7.02	6	7.01	6.27	4	
止 葉 期 (月日)	7.19	7.14	5	7.22	7.17	5	7.19	7.11	8	
出 穂 期 (月日)	7.31	7.25	6	8.01	7.27	5	7.31	7.22	9	
成 熟 期 (月日)	9.12	9.10	2	9.15	9.12	3	9.10	9.06	4	
穂 揃 日 数 (日)	5	4	1	3	5	▲ 2	6	5	1	
登 熟 日 数 (日)	43	47	▲ 4	45	47	▲ 2	41	46	▲ 5	
生 育 日 数 (日)	143	144	▲ 1	146	146	0	141	140	1	
移植時乾物重 (g/100本)	2.90	2.61	0.29	2.30	2.67	▲ 0.37	2.68	2.39	0.29	
草丈(cm)	移植時	15.1	13.8	1.3	16.3	13.4	2.9	16.4	12.8	3.6
	6月20日	32.8	30.3	2.5	34.0	30.8	3.2	34.9	34.5	0.4
	7月20日	61.9	71.0	▲ 9.1	66.1	74.5	▲ 8.4	67.6	81.3	▲ 13.7
茎数(本/m ²)	移植時	85	79	6	79	81	▲ 2	77	77	0
	6月20日	485	569	▲ 84	533	568	▲ 35	455	567	▲ 112
	7月20日	887	781	106	972	762	210	873	694	179
葉数(枚)	移植時	3.5	3.4	0.1	3.1	3.2	▲ 0.1	3.3	3.2	0.1
	6月20日	7.9	7.8	0.1	7.6	7.4	0.2	7.6	7.8	▲ 0.2
	7月20日	11.5	11.0	0.5	10.8	10.6	0.2	11.0	10.6	0.4
止 葉 葉 数 (枚)	11.6	11.1	0.5	11.1	10.8	0.3	11.1	10.7	0.4	
成熟期	稈長 (cm)	65.6	68.1	▲ 2.5	74.4	75.5	▲ 1.1	73.6	75.9	▲ 2.3
	穂長 (cm)	16.0	16.5	▲ 0.5	16.0	16.7	▲ 0.7	16.4	16.4	0.0
	穂数 (本/m ²)	745	677	68	763	648	115	734	636	98
一 穂 粃 数	39.2	48.0	▲ 8.8	40.8	49.3	▲ 8.5	43.0	50.7	▲ 7.7	
m ² 当 粃 数 (×1000)	29.2	32.5	▲ 3.3	31.1	31.9	▲ 0.8	31.6	32.2	▲ 0.6	
m ² 当 稔 実 粃 数 (×1000)	27.9	30.6	▲ 2.7	29.5	29.5	0.0	30.1	30.4	▲ 0.3	
m ² 当 登 熟 粃 数 (×1000)	26.8	26.0	0.8	26.4	25.6	0.8	28.8	27.1	1.7	
不 稔 歩 合 (%)	4.6	5.8	▲ 1.2	5.0	7.4	▲ 2.4	4.7	5.7	▲ 1.0	
稔 実 歩 合 (%)	95.4	94.2	1.2	95.0	92.6	2.4	95.3	94.3	1.0	
登 熟 歩 合 (%)	91.9	79.9	12.0	84.9	80.4	4.5	91.2	84.1	7.1	
粃 摺 歩 合 (%)	81.9	79.1	2.8	82.1	77.7	4.4	82.2	81.5	0.7	
屑 米 重 (kg/a)	2.0	2.9	▲ 0.9	3.4	4.4	▲ 1.0	1.3	1.9	▲ 0.6	
屑 米 歩 合 (%)	3.4	4.8	▲ 1.4	5.8	7.3	▲ 1.5	2.3	3.1	▲ 0.8	
千 粒 重 (g)	22.5	23.0	▲ 0.5	22.6	23.2	▲ 0.6	21.8	22.0	▲ 0.2	
わ ら 重 (kg/a)	59.4	61.5	▲ 2.1	66.4	69.3	▲ 2.9	65.5	68.2	▲ 2.7	
精 粃 重 (kg/a)	71.4	72.7	▲ 1.3	72.2	73.7	▲ 1.5	70.0	71.7	▲ 1.7	
精 玄 米 重 (kg/a)	57.4	56.4	1.0	56.8	56.0	0.8	57.1	57.5	▲ 0.4	
収 量 平 年 比 (%)	102	100	—	101	100	—	99	100	—	
玄米検査等級	1下	2上	—	2上	2上	—	1下	2上	—	

注1)平年値は、前7か年中、平成24年(最豊年)、同21年(最凶年)を除く5か年の平均値を用いた。

注2)苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m²(33cm×12cm)、1株3本植え。

注3)本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ0.8、0.97、0.69(kg/a)施用した。

注4)篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5)登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6)表中▲印は「減」または「早」を示す。

Ⅲ 試験研究及び地域支援活動

1. 試験研究・地域支援の概要

(1) 生産環境グループ（栽培環境）

経常研究では、「環境保全型有機質資源施用基準の設定調査（土壌機能実態モニタリング調査）」において、生産者圃場3地区8地点の土壌調査等を実施した。

経常(各部)研究では、「トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術の開発」および「ハウス栽培におけるほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発」において、それぞれの作物について化学肥料窒素5割削減のリスク評価を行うとともに、5割削減に伴う代替技術を検討した。「リン酸肥料のセル成型苗施肥によるブロッコリーの本圃減肥技術の確立」では、ブロッコリーのセル成型苗にリン酸を増肥することによる本圃の施肥量削減技術を検討した。

受託(国庫)研究では、「農地土壌炭素貯留等基礎調査事業（農地管理実態調査、定点調査）」において、生産者圃場3地区8地点の土壌調査およびアンケート調査を行った。

(2) 生産環境グループ（病虫）

経常研究では、「夏季高温で多発する水稻の紋枯病および疑似紋枯病の発生実態解明及び防除対策の確立」を実施した。

クリーン農業に関する課題として、経常(各部)研究の「ハウス栽培のためのほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発」および「スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立」を実施した。

公募型の課題では、内閣府SIP事業のうち、「持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発 11.新規土壌還元消毒技術の開発 (3)北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発」を実施した。

農作物病害虫診断試験では合計50件の診断依頼があった。

病害虫発生予察事業では農試定点ほにおける各作物（水稻、ばれいしょ、キャベツ）の主要病害虫（斑点米カメムシ、コナガ、いもち病等）の発生状況を調査し、結果を病害虫発生予察情報として提供した。

新農業資材では殺虫剤9剤、殺菌剤20剤の効果試験

を実施し、殺虫剤2剤、殺菌剤7剤が指導参考事項となった。

(3) 地域技術グループ（作物）

水稻試験では、奨励基本試験において、耐倒伏性および玄米品質に優れた「上育470号」、収量性に優れた「空育184号」、収量性・食味に優れた「空育185号」をやや有望とした。移植直播兼用の早生系等「上育471号」は収量性がやや劣ったものの、現地からの熟期分散に向けたニーズが高いため再検討とした。また、硬化性の低い「上育糯472号」は対照品種である「きたゆきもち」に比べ収量性・白度が高く農業特性に優れたものの、当地区で栽培されている「風の子もち」には収量性が及ばない。よって有望度については再検討とした。

畑作試験では、各奨励基本試験において、大豆では「十育260号」「十育262号」「十育265号」を“やや劣る”、小豆では耐病性に優れた

「十育167号」「十育170号」「十育171号」をやや有望とした。

園芸試験では、「野菜の地域適応性検定」においていちご春どり系統「空知36号」の適応性を検定し、多収性に優れたが食味がやや劣ったため「やや劣る」とした。また、公募型研究「リーフレタスの低コスト湛液型養液栽培における環境に優しい培地の選定」の試験を新たに開始した。

新資材の実用化試験では、水稻除草剤7剤が指導参考事項となった。

(4) 地域技術グループ（地域支援）

地域農業が直面する技術的な課題の解決を目指して、地域で実施される試験に対する支援や技術的な情報の提供等を、研究部、技術普及室、各農業改良普及センター、渡島総合振興局、檜山振興局、関係団体と連携を密にしながら行った。また、渡島地域農業技術支援会議、並びに檜山地域農業技術支援会議の取組として、地域における課題の把握に努めるとともに、要望があった課題について、下記のようなプロジェクトチームを組織して取り組んだ。

分 担 事 項	期 間	チ ー ム 員 所 属 ・ 職 ・ 氏 名
木古内町における飼料用米生産・利用システムの確立 （平成27年度渡島地域農業技術支援会議要望課題；木古内町における飼料用米生産・利用システムの確立）	平成28年	地域技術G主査（地域支援）林 哲央 ----- 技術普及課道南農試駐在（技術普及室）主任普及指導員 猫塚 雅彦
ハウス立茎アスパラガスにおける低収要因の解明と栽培改善 （平成26年度道南地域農業技術支援会議要望課題；ハウス立茎アスパラガスの経年劣化に伴う改植技術等の確立）	平成28～29年	地域技術G主査（地域支援）林 哲央 ----- 技術普及課道南農試駐在（技術普及室）上席普及指導員 高橋 恒久
炭酸ガス施用によるニラの通年出荷技術の確立 （平成27年度渡島地域農業技術支援会議要望課題；炭酸ガス施用によるニラの通年出荷技術の確立）	平成28～29年	地域技術G主査（地域支援）林 哲央 ----- 技術普及課道南農試駐在（技術普及室）上席普及指導員 高橋 恒久
大豆「ゆめのつる」割れ対策の検討 （平成28年度檜山地域農業技術支援会議要望課題；「ゆめのつる」の割れの発生軽減対策）	平成28～29年	地域技術G主査（地域支援）林 哲央 地域技術G研究主任 田澤 暁子 ----- 技術普及課道南農試駐在（技術普及室）主査（地域支援）辻 敏昭

2. 試験研究・地域支援の内容

—— (1) 生産環境グループ（栽培環境） ——

I 経常研究

1 経常研究

(1) 環境保全型有機質資源施用基準の設定調査

1) 土壌機能実態モニタリング調査

(平成11年～継続、経常、中央・上川・十勝・根釧・北見と分担)

目的：北海道の耕地土壌の理化学性の実態、変化の方向および土壌管理のための留意点を明らかにし、適正な管理および土壌肥沃度の維持に役立てる。

(2) 農作物の病害虫診断試験

1) 生理障害診断

(昭和50年～継続、経常)

目的：農業改良普及センター、技術普及室などを通して依頼される農作物の生理障害などを迅速に診断し、適切な指示を行うことによって被害を最小限にとどめる。

2 経常（各部）研究

1. クリーン農業総合推進事業

(1) トンネル早熟・露地マルチスイートコーンの化学肥料高度削減技術の開発

(平成26～28年、経常（各部）)

目的：スイートコーンのトンネル早熟・露地マルチ作型における化学肥料窒素5割削減栽培技術を確立する。

(2) ハウス栽培におけるほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発

(平成26～28年、経常（各部）、生産環境グループ（病虫）と共同)

目的：ほうれんそうにおける化学合成農薬および化学肥料窒素5割削減栽培技術を開発し、高度クリーン栽培および特別栽培を推進する。

(3) リン酸肥料のセル成型苗施肥によるブロッコリーの本圃減肥技術の確立

(平成27～29年、経常（各部）)

目的：ブロッコリーのセル成型苗にリン酸を増肥することによる、本圃の施肥量削減技術を確立する。

II 受託研究

1 受託（国庫）研究

(1) 農地土壌炭素貯留等基礎調査事業 (農地管理実態調査、定点調査)

(平成25～32年、受託、中央・上川・天北・十勝・根釧・北見農試と分担)

目的：全国の農耕地における土壌炭素の貯留量と営農管理による変動を明らかにする一環として、北海道の農耕地で調査を行う。

—— (2) 生産環境グループ（病虫） ——

I 経常研究

1 経常研究

(1) 農作物の病害虫診断試験

1) 突発及び新発生病害虫の診断試験

(昭和50年～継続、経常)

目的：突発または新発生病害虫の診断を行い、農作物の被害を最小限にとどめる。

(2) 夏季高温で多発する水稻の紋枯病および疑似紋枯病の発生実態解明及び防除対策の確立

(平成27～29年、経常、中央農試と共同)

目的：水稻の紋枯病・疑似紋枯病の発生・被害の実態を解明し、紋枯病および疑似紋枯病の防除対策を確立する。

2 経常（各部）研究

1. クリーン農業総合推進事業

(1) ハウス栽培におけるほうれんそうの高度クリーン栽培技術の開発

(平成26～28年、経常（各部）、生産環境グループ（栽培環境）と共同)

目的：

ほうれんそうにおける化学合成農薬および化学肥料窒素5割削減栽培技術を開発し、高度クリーン栽培および特別栽培を推進する。

(2) スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立

(平成27～29年、経常（各部）上川農試と共同)

目的：スイートコーンの8、9月どり栽培において、雌穂を加害する害虫の被害実態を明らかにし、効

率的な防除体系を確立する。

II 道受託研究

1 病害虫発生予察調査

- (1) 水稲病害虫発生予察定点調査
- (2) 畑作病害虫発生予察定点調査
- (3) 園芸作物病害虫発生予察定点調査

(昭和19年～継続、道受託)

目的：植物防疫法にもとづいて病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、病害虫防除所と連携して発生予察情報を関係機関に提供して病害虫防除の適正化を図る。

III 公募型研究

1 北海道地域における新規土壌還元消毒技術の開発

(平成26～30年、公募型、中央農研等と共同研究)

目的：北海道地域に適した低コストで処理作業が容易で深層まで消毒可能な新規資材を用いた土壌還元消毒技術を開発し、トマト株腐病、褐色根腐病、サツマイモネコブセンチュウに対する防除効果を検証する。また、北海道における新規土壌還元消毒の導入マニュアルを作成する。

IV 受託研究

1 新農業資材の実用化試験

(昭和45年～継続、民間受託)

目的：新殺菌剤および殺虫剤の病害虫に対する防除効果および薬害を検討する。

(3) 地域技術G (作物)

I 重点研究

1. 冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系の確立

(平成26～28年、重点)

目的：冬季の北海道において道内各地の気象条件に対応した無加温ハウス生産流通体系を確立する。

II 経常研究

1. 経常研究

1) 水稲新品種育成試験

(1) 障害に強く高品質で安定生産可能な北海道米品種の開発促進 (平成26～31年、経常)

ア 地域適応性試験 (奨励品種決定基本調査)

目的：水稲品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、育成系統の広域適応性を評価する。

イ 品種育成期間短縮のための大型水田温室を利用した世代促進

目的：水稲品種開発において、用途に応じた品種を迅速に提供するため、品種育成期間を短縮させる。

(2) 小豆地域適応性検定試験

(平成13年～継続、経常)

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定する。

(3) いちご地域適応性検定試験

(昭和63年～、経常)

目的：道南農試育成系統(いちご多収性春どり系統)の道南地域における地域適応性を検討する。

(4) マルハナバチおよびホルモン処理が不要な単為結果性トマトの栽培技術開発

(平成26～28年、経常)

(生産環境グループ(栽培環境)と共同)

目的：トマト生産において法律対応と省力化を可能にする単為結果性トマトの導入を推進し、北海道のトマト生産を発展させるために、単為結果性トマトの栽培特性に対応した安定多収栽培技術を開発する。

(5) さつまいも生産における収益向上を目指した育苗体系確立と加工適性の評価

(平成27～29年、経常)

目的：北海道独自の育苗技術開発による種苗コスト低減と北海道産さつまいもの加工適性について府県産との比較および品種選定を行う。

2 経常(各部)研究

1. 水稲新品種育成試験

(1) 奨励(水稲)(水稲奨励品種決定現地調査)

(昭和29年～継続、経常(各部))

目的：有望品種・系統の道南現地における適応性を明らかにし、奨励品種決定の資とする。

2. 新優良品種普及促進事業

(1) 水稻新品種普及促進事業

(昭和41年～継続、経常(各部))

目的：新品種の普及を促進するため、優良品種候補の有望系統について、種子の増殖を行う。

3. 奨励品種決定調査

(1) 大豆奨励品種決定基本調査

(平成13年～継続、経常(各部))

目的：試験機関で育成した有望系統について、その生産力並びに主要特性を検定し、奨励品種決定の資とする。

(2) 大豆奨励品種決定現地調査

(昭和29年～継続、経常(各部))

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

(3) 小豆奨励品種決定調査

(昭和46年～継続、経常(各部))

目的：試験機関で育成した有望系統あるいは既存品種について、現地における適応性を検定し、奨励品種決定の資とする。

III 公募型研究

1. 新たな簡易米飯評価法を用いた実需ニーズに対応した業務用多収品種の開発

(平成27年～31年、公募型(農食事業))

目的：新たに開発した簡易米飯評価法を用いて、消費者が求める値頃感と美味しさを兼ね備えた、丼物と弁当用に適する業務用多収品種を早期に開発する。

2. 地域ブランド強化のための高品質食用・加工用サツマイモ品種の開発

(平成27年～31年、公募型(農食事業))

目的：北海道に適した、高品質な食用・加工用サツマイモ品種を開発する。

3. 道南地域における大納言小豆の高品質安定生産に向けた栽培法改善及び実需評価

(平成26～28年、公募(その他))

目的：道南地域の大納言小豆生産において、生産性および品質の向上に対応する栽培法改善技術を確立する。

4. リーフレタスの低コスト湛液型簡易養液栽培における環境に優しい培地の選定

(平成28年、公募型(栗林育英学術財団))

目的：湛液型簡易養液栽培による環境保全型のリーフレタス栽培法確立を目的に、廃棄容易な培地の探索を行う。

IV 受託研究

1 新農業資材の実用化試験

(1) 水田除草剤実用化試験

(昭和34年～継続、民間受託)

目的：新除草剤による除草効果及び水稻の生育収量に及ぼす影響について検討し、今後の除草体系確立の資とする。

(2) 園芸作物の除草剤及び生育調節剤実用化試験

(昭和39年～継続、民間受託)

目的：園芸作物に対する新しい除草剤、生育調節剤及びその他資材の実用性を検討する。

———— (4) 地域技術G (地域支援) ————

I 経常研究

1 経常(各部)研究

1. 革新的技術導入による地域支援

(1) 道南地域の様々な畑条件におけるさつまいも栽培の現地実証

(平成27～28年、経常(各部))

目的：道南地域の各畑地条件でさつまいもが輪作作物の一つとして栽培可能であることと、収穫後の茎葉すき込みが後作物に有効であることを実証・展示し、生食用さつまいも栽培を速やかに地域へ定着させる。

II 普及センターの支援要望課題に対する対応

1 水田土壌の窒素含量測定に係る支援

① 担当：地域技術G 林 哲央

② 対象：渡島農業改良普及センター稲作担当者

③ 内容

稲作担当者会議で取り組まれた「作期中アンモニア態窒素の測定」に関して、水田土壌のアンモニア態窒素の測定方法を講義するとともに、現地圃場の土壌を測定した。

2 抑制トマトの生理障害対策

- ① 担当：地域技術G 林 哲央
- ② 対象：渡島農業改良普及センター森町担当者
- ③ 内容
平成25年度から発生している抑制トマトの芯止まり症状について、ホウ素の葉面散布方法を支援した。

3 水稻紋枯病・疑似紋枯病の発生調査と対応方策

- ① 担当：生産環境 G 角野晶大，三澤知央
- ② 対象：渡島農業改良普及センター稲作担当者
- ③ 内容
渡島管内における対策法の策定に関して情報提供および指導を行った。

4 ハウス野菜（ハクサイ、カブ等）のナメクジ対策

- ① 担当：生産環境 G 青木元彦
- ② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者
- ③ 内容
ナメクジの発生活消長の解明とナメクジの効果的防除法について検討し、技術支援した。

5 はくさい収穫後の残存窒素評価と後作トマト施肥対応

- ① 担当：地域技術G 林哲央，生産環境G 奥村理
- ② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者
- ③ 内容
はくさい収穫後の残存土壌窒素の評価について指導するとともに後作の施肥対応について支援した。

6 ねぎの効率的な病害虫防除の対策

- ① 担当：生産環境G 角野晶大，三澤知央
- ② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者
- ③ 内容
べと病の発生予察に応じた防除方法と萎凋病に対する緑肥栽培の効果とフザリウム菌量の測定方法を支援した。

7 ニラ栽培のネギコガ対策

- ① 担当：生産環境G 青木元彦
- ② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者
- ③ 内容
にらにおけるネギコガの発生活消長の解明，発生活消長表の作成と防除体系の確立に向けて支援した。

8 花ユリ「ピカリ」の球根腐敗対策等

- ① 担当：生産環境 G 角野晶大，三澤知央
- ② 対象：渡島農業改良普及センター園芸担当者
- ③ 内容
球根腐敗の原因究明および対策と，良質生産管理のポイントについて支援した。

9 水稻の成苗ポット育苗における苗の異常褐変症状への対処法

- ① 担当：地域技術 G 林 哲央
- ② 対象：檜山農業改良普及センター稲作担当者
- ③ 内容
土壌の低pH・燐酸過剰等への対策を支援した。

10 有機稲作栽培技術のマニュアル化

- ① 担当：地域技術G 林 哲央
- ② 対象：檜山農業改良普及センター有機担当者
- ③ 内容
苗質を安定化させるための液肥施用と本圃への早期施肥技術，土壌アンモニウム態窒素と稲体中窒素濃度の測定を支援し，有機稲作新規参入者向けマニュアルの編集作業と除草機の評価について助言した。

Ⅲ 地域農業技術センター連絡会に対する支援

- ① 目的：道南地域における農業生産の振興を図るため、檜山管内の町立農業技術センターの実務者を中心にした農業関連技術の情報交換を支援する。
- ② 日時：平成28年4月19日（総会）
平成28年10月6日～7日（秋季研修会）
平成29年1月12日（役員会）

3. 地域農業技術支援会議の活動

I 設置趣旨

農政の大きな転換と農業・農村に対するニーズの多様化が進み、農業政策も地域の自主性や創意工夫を重視する方向へと変化し、地域課題も一層高度化・多様化している。このような中で、渡島総合振興局及び檜山振興局管内の農業及び農業関連産業が直面する課題に試験研究と普及組織、振興局行政が迅速かつ的確に対応するため、地域農業を支援する推進体制として、「渡島地域農業技術支援会議」、並びに「檜山地域農業技術支援会議」を設置している。

II 渡島地域農業技術支援会議

1 代表者会議

- ① 日時：平成28年6月1日，平成29年1月24日
- ② 場所：渡島農業改良普及センター
- ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター
- ④ 内容：規約改正，プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告，運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況，次年度要望課題への対応指針，要望課題の把握方法等。

2 地域関係者会議

- ① 日時：平成29年2月23日
 - ② 場所：知内町中央公民館
 - ③ 参集：総合振興局、農業改良普及センター、管内市町、J A，ホクレン，指導農業士
 - ④ 内容：プロジェクト課題の実施および取りまとめ報告，次年度要望課題への対応方針。
- 3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等
事務局会議3回，要望課題およびプロジェクトにかかる会議9回，プロジェクト調査5回。

III 檜山地域農業技術支援会議

1 三者会議

- ① 日時：平成28年5月30日，平成29年1月26日
- ② 場所：檜山農業改良普及センター
- ③ 参集：振興局、農業改良普及センター
- ④ 内容：プロジェクト課題の進捗状況と取りまとめ報告，運営方法、年間スケジュール、事務局およびプロジェクト会議等の開催状況，次年度要望課題への対応指針，要望課題の把握方法等。

2 地域関係者会議

- ① 日時：平成29年2月22日
- ② 場所：厚沢部町山村開発センター

③ 参集：振興局、農業改良普及センター、管内町、J A，指導農業士・農業士，ホクレン等。

④ 内容：プロジェクト課題の実施報告および次年度の対応方針。

3 事務局会議およびプロジェクト課題活動等
事務局会議4回，要望課題およびプロジェクトにかかる会議9回，プロジェクト調査5回。

4. 平成28年度普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項

I 普及奨励事項

なし

II 指導参考事項

(1) 道南地域の大納言小豆栽培における播種期の設定

道南地域における大納言小豆の収量・品質の安定化に向けた推奨する播種期を標播（6月上旬播き）および晩播（6月中旬播き）、栽植密度は標播では標準栽植密度（16,667 個体/10a）、晩播では1.3倍密植（21,667

(2) 施設栽培ほうれんそうにおける化学合成農薬・化学肥料5割削減技術と作型別評価

施設栽培ほうれんそう4作型において、化学合成農薬・化学肥料5割削減栽培技術を組み合わせ、その効果を検証したところ、6月に土壤消毒を実施した後の7・8月どり作型については病害虫の被害が少なく、慣行と同等の収量・品質が得られた。

(3) 新農業資材

道南農試で試験を実施した殺虫剤2剤、殺菌剤7剤、水稻除草剤7剤を指導参考事項とした（薬剤名省略）。

5. 論文ならびに資料

(1) 研究論文

論文名	学会誌名	巻号 数	ページ			著者名
北海道における良質良食味生産と技術開発の現状	日本水稲品質・食味研究会会報	8	6	—	11	丹野久
北海道のもち米品質における年次間と地域間差異およびその発生要因	日本水稲品質・食味研究会会報	8	32	—	33	丹野久、木下雅文、佐藤毅
北海道北見地域における虎豆の栽培技術—早期出荷を目的とした栽培方法—	日本作物学会紀事	86	24	—	34	黒崎英樹、唐星児、林哲央、中村隆一
北海道における有機栽培タマネギ・バレイショの窒素施肥反応	日本土壌肥料学雑誌	87(3)	205	—	208	櫻井道彦、坂口雅己、日笠裕治
北海道におけるニラ白斑葉枯病菌の種構成とその季節間変動	植物防疫	70	467	—	471	三澤知央、竹内正信
First report of <i>Pleospora herbarum</i> causing brown leaf blight of Chinese chive in Japan	New Disease Reports	34	5			三澤知央・黒瀬大介・對馬誠也・佐藤豊三
ハウレンソウ株腐病菌の亜群の同定と関連亜群のハウレンソウに対する病原性比較	北日本病害虫研究会報	67	94	—	99	三澤知央、萩原淳史、大平誠、山口泰輔
カボチャ疫病に対する各種薬剤の防除効果	北日本病害虫研究会報	67	100	—	103	三澤知央
北海道におけるダイズ紫斑病の薬剤散布適期	北日本病害虫研究会報	67	81	—	84	三澤知央
北海道におけるイネ赤色菌核病の発生	北日本病害虫研究会報	67	77	—	80	東岱孝司、三澤知央、長浜恵

2016.4.1～2017.3.31に掲載

(2) 口頭発表

発表名	発表学会等名	開催地	開催期間 (月日)		発表者名
施設栽培ほうれんそうにおける ハウレンソウケナガコナダニに対 するベイト剤(アセタミプリド1%) の効果	平成28年度日本応 用動物昆虫学会・ 日本昆虫学会共催 北海道支部大会	札幌市	1/18		青木元彦
湛液型簡易養液栽培における 培地の種類がリーフレタスの生 育に及ぼす影響	北海道園芸研究談 話会	札幌市	12/5		大久保進一、高濱雅幹、 日笠裕治、尾崎洋人、中 住晴彦
施設ハクサイ収穫後の土壌残存 窒素の推定と後作トマトに対す る窒素施肥量の算出法	日本土壌肥料学会	佐賀県	9/20	— 9/22	奥村理、細淵幸雄、日笠 裕治
北海道南部地域におけるサツマ イモの定植・収穫時期が収量お よび品質に与える影響	園芸学会H28秋季 大会	名古屋市	9/10	— 9/11	高濱雅幹、野田智昭、植 野玲一郎、宗形信也
サツマイモ切り苗育苗の栽植お よび採苗条件が苗生産に及ぼ す影響	北海道園芸研究談 話会	札幌市	12/5		高濱雅幹、野田智昭、植 野玲一郎、宗形信也、大 久保進一、尾崎洋人、中 住晴彦
北海道における良質良食味生 産と技術開発の現状	日本水稲品質・食 味研究会 第8回講 演会	宮崎市	11/12		丹野久
北海道のもち米品質における年 次間と地域間差異およびその発 生要因	日本水稲品質・食 味研究会 第8回講 演会	宮崎市	11/12		丹野久、木下雅文、佐藤 毅
水稲出穂晩限メッシュ図の作成 と気象変動対応型栽培への活 用	日本土壌肥料学会 北海道支部 2016 年度秋季大会	北海道帯	11/29		三浦周・藤倉潤治、濱寄孝 弘、廣田知良、丹野久
北海道檜山地域におけるハウス 長期どりアスパラガスの土壌管 理実態	日本土壌肥料学会 2016佐賀大会	佐賀市	9/20	— 9/22	林 哲央、田中良典、三浦 洋、田中将之、沼下利広、 佐藤隆行、小坂善仁
日本初確認の <i>Colletotrichum viniferum</i> および <i>C.siamense</i> による ブドウ晩腐病(病原追加)	日本植物病理学会 北海道部会	札幌市	10/20		三澤知央、黒瀬大介、佐 藤豊三
北海道におけるシュンギク炭疽 病の発生	日本植物病理学会 北海道部会	札幌市	10/20		三澤知央、堀田治邦
<i>Rhizoctonia solani</i> AG-1 ICによ るキャベツ株腐病の発生(病原 追加)	日本植物病理学会 北海道部会	札幌市	10/20		三澤知央、青木元彦
ニラ白斑葉枯病に対する各種薬 剤の防除効果:第2報	北日本病害虫研究 発表会	仙台市	2/23	— 2/24	三澤知央、美濃健一、角 野晶大

開催期間は2016.4.1~2017.3.31

(3) 専門雑誌、著書・資料

①雑誌

公表・成果名	雑誌名	号数	ページ			著者名
「殺虫剤」北海道における抵抗性の具体例	ニューカントリー	10月号	40	—	41	青木元彦
農学校1年1組 トマトの時間 定植後の管理③	ニューカントリー	8月号	74	—	75	大久保進一
早春まき施設野菜収穫後の施肥対応	ニューカントリー	2月号	50	—	51	奥村理
国際マメ年と豆類の健康機能性	月刊 NOSAI	7月号	21	—	27	加藤淳
あずき水 飲むだけダイエット	日経ヘルス	8月号	22	—	25	加藤淳
美味あずきスープでメタボ撃退	壮快	9月号	32	—	34	加藤淳
豆に秘められたパワーを見直そう	農家の友	9月号	32	—	43	加藤淳
道産豆類の消費拡大:「国際マメ年」で見直されるべき価値	ニューカントリー	10月号	20	—	22	加藤淳
あずきはこんなに体にいい	致知	11月号	132	—	134	加藤淳
「2016国際マメ年」を振り返って	北農	1月号	1			加藤淳
小さいけれど栄養豊富な豆	たのしくたべよう ニュース	2月号	1			加藤淳
糖と脂肪に食前あずき茶が効く!	オレンジページ	2月2日号	61	—	63	加藤淳
こまつな、チンゲンサイなど1月中旬までの安定出荷が可能	ニューカントリー	9月号	16	—	18	高濱雅幹
北海道のもち米品質における地域間および年次間差異とその発生要因	農業および園芸	91巻4月号	455	—	467	丹野久
施設園芸ミニ情報	施設と園芸	1月号	18			中住晴彦
秋まき小麦「きたほなみ」の道南地域における低収要因と栽培改善指針	北農	84巻1号	18	—	24	林哲央、奥村理、田中将之、佐藤聡美、立野正純、星春光
いちご(窒素栄養診断)	ニューカントリー	秋季臨時増刊号	154	—	155	日笠裕治
北海道で発生した園芸作物の新病害・その19 ブルーベリーアルターナリア葉枯病	北農	2号	148	—	150	三澤知央
北海道で発生した園芸作物の新病害・その20 コマツナベと病	北農	4号	336	—	339	三澤知央

②書籍

書籍名(記事名)	出版社名	ISBN	ページ			著者名
土づくり技術情報「野菜編」	北海道農協「土づくり」運動推進本部		27	—	36	奥村理
日本食およびその素材の健康機能性開発(第7章 小豆・インゲン豆)	シーエムシー出版(東京)	978-4-7813-1157-9	185	—	192	加藤淳
北海道の施設野菜	北海道協同組合通信社(札幌)	978-4-86453-043-9	48	—	52	林哲央
土づくり技術情報「野菜編」	北海道農協「土づくり」運動推進本部		54	—	66	林哲央

①、②とも2016.4.1～2017.3.31に掲載

(4) 新聞記事

公表成果名	新聞名	発行日	著者名
ベビーリーフすくすく	函館新聞	1月23日	高濱雅幹
残存窒素を有効利用	日本農業新聞	3月28日	奥村 理

6. 印刷刊行物

- (1) 平成27年度 北海道立総合研究機構道南農業試験 場年報 (平成29年1月、33頁、HP公開)
 (2) 第19回道南農業新技術発表会要旨 (平成28年2月、16頁、200部)

7. 技術指導・技術相談

(1) 技術指導

発表、講演等の名称	講師氏名	月日	依頼元	開催場所	内容
ハクサイ跡地での施肥	林哲央	4/13	渡島農業改良普及センター本所	北斗市	ハクサイ跡地での施肥量の決定法について指導を行った。
稲作担当者会議	林哲央	4/25、 7/27	渡島農業改良普及センター本所	北斗市	渡島普及センターの稲作担当者会議に出席、意見を述べ指導した。
土曜授業	林哲央	5/28	北斗市立谷川小学校	北斗市	土曜授業(農業体験学習)におけるベッド作りと播種、さつまいも植え付け作業の指導。
ニラ3年目株ハウスにおける土壌調査手法	林哲央	5/10	渡島農業改良普及センター本所	知内町	旧重点地区のニラ3年目株ハウスにおける土壌調査手法の習得と三相分布測定試料の採取方法の習得のため研修を行った
体験学習における栽培技術	中住晴彦・ 尾崎洋人・ 大久保進一・ 田澤暁子・ 高濱雅幹	5/14、 5/28、 6/11、 6/18、 7/23、 8/27	北斗市体験学習事業実行委員会	北斗市	市民を対象とした農業体験学習の技術面での指導を行った。
採土缶による三相分布の算出のための実容積測定法	林哲央	5/20	渡島農業改良普及センター本所	場内	採土缶による三相分布の算出のため、実容積測定法の研修、指導を行った。
道産大豆の特徴と健康機能性	加藤淳	5/28	北海道納豆工業組合	札幌市	年次総会において基調講演として講演した。
大豆・小豆の品種の特性と圃場試験法	田澤暁子	7/4	檜山農業改良普及センター本所	江差町	大豆と小豆について品種特性と圃場試験方法の説明指導を行った
水稻品種の特性	尾崎洋人	7/5、9/1	檜山農業改良普及センター本所	江差町	水稻配布系統品種の特性を説明した。
道南農業の歩みと現状	高濱雅幹	7/13	サイエンス・サポート函館	七飯町	道南農業の歴史と現状について講演した。
北海道産の食料生産事情	加藤淳	7/22	さっぽろ地域雇用創造協議会	札幌市	食の販売促進人材育成セミナー(前期)講師
水田作期中土壌アンモニウム態Nの分析法	林哲央	7/27、 8/8	檜山農業改良普及センター本所	場内	水田作期中土壌アンモニウム態Nの分析法の指導を行った。

(開催場所、場内は道総研本部の自己点検では該当しないが記載した)

(続き)

発表、講演等の名称	講師氏名	月日	依頼元	開催場所	内容
ハウス栽培トマトの作型	大久保進一	7/28	檜山農業改良普及センター本所	江差町	トマト栽培ハウスの作付け期間拡大のため作型の説明を行った。
小豆品種の特性	田澤暁子	8/2	檜山農業改良普及センター本所	江差町	小豆品種の特性について説明した。
大納言小豆の栽培技術	田澤暁子	8/15	檜山農業改良普及センター本所	江差町	大納言小豆の播種期などを説明した。
ダイズシストセンチュウ抵抗性育種の現状と、圃場におけるレース判別	田澤暁子	8/17	檜山農業改良普及センター本所	江差町	ダイズシストセンチュウの基礎知識や対策、調査法の研修と指導を行った。
粘着トラップに誘引されたアザミウマ類の識別	青木元彦	8/18	渡島農業改良普及センター本所、渡島北部支所	場内	粘着トラップに誘引されたアザミウマ類の識別について研修を行った
サイエンスダイアログ「道南の農作物をさらにおいしく」	加藤淳	8/20	サイエンス・サポート函館	函館市	はこだて国際科学祭のオープニングイベントとしての対談型講演会
土壌貫入硬度測定および採土缶採取方法の習得。	林哲央	8/29	渡島農業改良普及センター本所	北斗市	土壌貫入硬度測定および採土缶採取方法の習得のため研修を行った。
道内におけるねぎおよびにらの病害	角野晶大	9/2	(株)武蔵野種苗園	場内	道内におけるねぎおよびにらの病害の発生状況とその対策について研修を行った
オオタバコガの識別	青木元彦	9/6	渡島農業改良普及センター本所	北斗市	オオタバコガの識別について研修を行った。
単為結果性トマト	大久保進一	9/6	檜山農業改良普及センター本所	江差町	単為結果性トマトの特性について説明した。
ゆめのつる割れ粒発生に関する調査	田澤暁子	9/16	檜山農業改良普及センター本所	江差町	調査方法と取りまとめ法の説明指導を行った。
北海道の食料事情	加藤淳	9/24	札幌商工会議所	札幌市	北海道フードマイスター第23回検定セミナーの講師
創造実験の技術面での指導	中住晴彦	10/4、10/11、11/8、1/11	函館工業高等専門学校	函館市	専攻科2年生が実施する創造実験の技術面での指導を行った。
特別記念シンポジウム「小さな豆から大きな健康」	加藤淳	10/11	日本豆類協会	東京都	国際マメ年・豆の日特別記念シンポジウム2016のパネリスト
あなたの健康を支える豆料理	加藤淳	10/11	北海道豆類価格安定基金協会	北見市	北海道・豆トークショー2016の基調講演
いちごの新品種	中住晴彦	10/19	檜山農業改良普及センター本所	江差町	「空知35号」の特性を説明した。
北海道産の食料生産事情	加藤淳	10/21	さっぽろ地域雇用創造協議会	札幌市	食の販売促進人材育成セミナー(後期)講師
秋のフォーラム「豆」特集	加藤淳	10/28	ホクレン(広報総合課)	札幌市	ホクレンマメ'Sパーティーのパネルディスカッション及び解説者
道内産サツマイモの栽培方法	高濱雅幹	10/29	JA函館市亀田 女性部	函館市	道内産さつまいもの栽培方法と品質について講演した。
北海道農業に及ぼす気候変動の影響とその対応	加藤淳	11/13	北海道環境カウンセラー協会	札幌市	環境カウンセラー研修の基調講演
農業と研究	三澤知央	11/25	北斗市立上磯中学校3年生6クラス	北斗市	道内農業と病原菌の研究について講演した
道南の豆・食べておいしく綺麗になる!	加藤淳	12/5	道南地域WAKU2協議会	七飯町	国際マメ年記念道南地域フォーラムの基調講演
道南農業の動向予測と地球温暖化が及ぼす影響	加藤淳	12/7	北海道農政事務所函館拠点	厚沢部町	「道南地域における農業の将来について語り合おう」セミナーの基調講演
地球温暖化が及ぼす食への影響	加藤淳	12/9	ひまわりの種の会	札幌市	「さっぽろ環境インタープリター養成講座」第8回の講師

(続き)

発表、講演等の名称	講師氏名	月日	依頼元	開催場所	内容
畑作物の生産現況と品質(豆類編)	加藤淳	1/9	札幌商工会議所	札幌市	北海道フードマイスター上級編第9回検定セミナーの講師
北海道産豆類の特徴と健康機能性	加藤淳	1/16	函館ガストロノミーバリアドス	函館市	函館ガストロノミーバリアドス定例学習会の講師
北海道の食料事情	加藤淳	1/21	札幌商工会議所	札幌市	北海道フードマイスター第24回検定セミナーの講師
品種の変遷	丹野久	2/2	2016語り部交流会in北海道	函館市	「ふっくりんこにつながる蝦夷地の稲作400年史」。北海道水田発祥の地・道南で特A米の「ふっくりんこ」を中心に、北海道の水田発祥から「ふっくりんこ」までの道南の品種変遷を説明。
道産食材の基礎知識	加藤淳	2/12	札幌商工会議所	札幌市	北海道フードマイスター資格更新セミナーの講師
新技術伝達研修	青木元彦、田澤暁子、林哲央	2/13	渡島総合振興局農務課	北斗市	普及員を対象に新技術伝達研修を行った
トマト褐色根腐病生物検定方法	角野晶大	2/13	青森県産業技術センター、野菜研究所	場内	トマト褐色根腐病生物検定方法について研修を行った。
Rhizoctonia、Alternaria、Stemphyriumの観察、診断方法	三澤知央	2/14	青森県産業技術センター野菜研究所	場内	Rhizoctonia、Alternaria、Stemphyriumの観察、診断方法について研修・指導を行った
にらの病害虫	角野晶大、三澤知央	2/15	(株)武蔵野種苗園JA宮崎中央	場内	にらの病害虫対策について情報提供し、今後の対策を指導した。
ジャガイモシスト線虫の調査法	青木元彦	2/20	せたな町農業センター	せたな町	ジャガイモシストセンチウについて生態・防除の説明とシストの分離法の実習を行った。
ヒマワリ半身萎凋病抵抗性検定手法	角野晶大	2/24	ホクレン農業総合研究所	仙台市	北日本病害虫研究発表会にてヒマワリ半身萎凋病抵抗性検定法の情報を提供し、今後の方向性を助言し指導した。
地球温暖化が及ぼす農作物の収量・品質への影響	加藤淳	3/6	北海道土を考える会	北広島市	土を考える会道央支部冬期研修会の講師
北海道産豆類の品質特性と健康機能性	加藤淳	3/14	檜山振興局	江差町	檜山管内農業普及指導員総合研修の講師
道南地域の大納言栽培	田澤暁子	3/14	JA新はこだて厚沢部支店	厚沢部町	檜山南部畑作振興会試験報告会で、大納言栽培に関する講演
道産食材の基礎知識	加藤淳	3/18	札幌商工会議所	札幌市	北海道フードマイスター資格更新セミナーの講師

(2) 技術相談

項目	件数
電話・メール・公開デー相談コーナーによるもの	224件
	内訳 電話77件、メール22件、来場37件、現地での口頭問合わせ13件、公開デー75件
病害虫診断・生理障害診断(分析等)に基づくもの	52件
	内訳 診断別：病害32件(62%)、虫害4件(8%)、生理障害8件(15%)、その他不明8件(15%) 作目別：野菜38件(73%)、果樹2件(4%)、畑作5件(10%)、花き6件(12%)、水稻1件(2%)

IV その他の活動

1. 職員研修

受講者	研修名	期間	場所
加藤 淳 丹野 久 小滝宏樹 日笠裕治 中住晴彦	ナイスライフセミナー	8.30～8.31	渡島総合振興局
小滝宏樹	情報セキュリティ対策及び飲酒運転根絶	9.30	道総研本部1階セミナー室
渋谷美香子	女性職員のための未来創造研修	9.7～9.8	渡島総合振興局
順西奈緒	新規採用職員研修	4.21～4.22	道総研本部
順西奈緒	農業機械高度利用研修(初級:総合コース)	8.23～8.26	北海道立農業大学校 機械研修センター
順西奈緒	農業機械高度利用研修(中級)	1.30～2.3	北海道立農業大学校 機械研修センター
順西奈緒	新規職員研修(研究支援職員)	3.1	中央農試
尾崎洋人	語り部交流会in北海道、ふっくらんこにつながる蝦夷地の稲作400年史	2.2	函館市民会館小ホール
加藤 淳	北海道土壌肥料協議会現地検討会	6.16～6.17	和寒町、名寄市、剣淵町、旭川市、愛別町、比布町
加藤 淳 林 哲央	地域農業技術センター連絡会議研究情報交換会	9.8～9.9	富良野市
加藤 淳 高濱雅幹	青森県の園芸試験研究	11.02	青森県産業技術センター
加藤 淳 日笠裕治 林 哲央 奥村 理	日本土壌肥料学会北海道支部秋季大会	11.29	帯広市(とがちプラザ)
加藤 淳	日本食品工学会北海道支部大会	2.20	北海道大学学術交流センター
加藤 淳	新技術発表会	2.14	かでの2.7
加藤 淳 中住晴彦	NATEC研究交流会	2.13	かでの2.7
角野晶大	日本植物病理学会北海道支部会	10.19～10.20	かでの2.7
高濱雅幹	北海道さつまいも懇話会現地見学会	8.24	鹿追町、芽室町
高濱雅幹	いも類研究会	12.8	大分県別府市
高濱雅幹	サツマイモ産業振興研究セミナー	1.14	女子栄養大学駒込キャンパス
高濱雅幹	北海道さつまいも懇話会情報交換会	2.28	酪農学園大学
丹野 久	日本育種学会	9.24～9.25	鳥取大学
丹野 久	北海道イネ研究会	11.22	北海道大学農学部
丹野 久	日本作物学会・育種学会北海道談話会	12.3	北海道大学農学部
三澤知央	次世代農林水産業創造技術農業技術 公開シンポジウム	4.6～4.7	東京

上段は総務で下段が研究。口頭発表のための学会出席を除く

2. 研修の受け入れ

研修名	受入月日	人数	研修対象	内容
大野中学生 職場体験学習	8/18～19、 23	10	北斗市大野中学 2年生:4名、1年生6名	中学生に、土壌分析、生育調査、作物の管理について実体験をもらった

3. 参 観

参観者数

(単位：名)

参観項目	平成28年									平成29年			計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1月	2	3	
一 般				90	184	17	22						313
水 稻				28	15	28							71
野 菜					1	2	6						9
栽培環境			5										5
病 虫				15			19				4		38
計			5	133	200	47	47				4		436

(参観件数計21件、8月は農試公開デーの165名を含む)

4. 主催事業等

(1) 第22回農試公開デー

①日時：平成28年8月10日(水)13～16時、参加者165名

②内容：ア)見学会：ユリの木、水稻展示圃、水稻世代促進温室、サツマイモ、土の観察、ブロッコリー

イ)パネル)新しい品種技術の紹介、標本展示、体験)白米までのを知らう、ウ)相談コーナー、家庭菜園・作物栽培、肥料、病害虫診断 エ)試食コーナー：トマト品種の食べ比べ、焼き芋シャーベット オ)農業機械展示コーナー

(2) 研究成果発表会 (道南農試主催、*檜山地域農業技術支援会議主催)

名 称	開催地 日時	参加 者数	内 容
第19回道南農業 新技術発表会	厚沢部町 町民交流セ ンター 平成29年2 月22日(水) 13:00～ 16:00	71	発表課題 1 新しい技術等 1)北海道米の白未熟粒・死米の発生要因と軽減技術 尾崎洋人 2)道南地域の大納言小豆は播く時期が重要です 田澤暁子 3)「エリモショウズ」に落葉病抵抗性が付いたあずき「十育167号」 田澤暁子 4)ブロッコリー栽培における高度クリーン栽培技術(化学合成農 薬・化学肥料を5割削減) 青木元彦 5)7・8月どりほうれんそうの高度クリーン栽培技術 奥村理 6)平成29年に特に注意を要する病害虫 青木元彦 2 農業改良普及センター 活動紹介 1)せたな町における有機稲作新技術定着と新規参入促進に向 けた取り組み 檜山農業改良普及センター 竹内正信 3 地域農業技術支援会議について 中住晴彦
渡島地域農業技 術支援会議 平成28年度新技 術セミナー*	知内町中 央公民館大 研修室 平成29年2 月23日(木) 13:00～ 15:00	63	(1)基調講演 ○北海道における良食味米育種と関連技術 丹野久 (2)新技術発表 ○施設栽培ほうれんそうにおける高度クリーン栽培 林哲央 ○北海道における水稻疎植栽培 (技術普及室)辻敏昭 ○先進地報告「高知県におけるニラ栽培の現状」 (渡島農業改良普及センター) 山口泰輔 ○農業技術支援会議プロジェクト結果(中間報告) 「炭酸ガス施用によるニラの通年出荷技術の確立について」 (技術普及室) 高橋恒久

(3) 研究会等の開催（道南農試主催）

名称(主催・共催の別)	開催日	開催地	参加者数	備考
檜山管内さつまいも巡回(主催)	6/6	厚沢部町	18	農家, 振興局職員, JA職員, 役場職員を対象にしたサツマイモの定植作業体験および機械定植の見学を行い, 研究成果の普及を図った。
檜山管内さつまいも巡回(主催)	8/3	厚沢部町	16	農家, 振興局職員, JA職員, 役場職員とサツマイモ圃場と前作サツマイモ跡地の馬鈴薯圃場の巡回を行い, 研究成果の普及を図った。
檜山管内さつまいも巡回(主催)	10/11	厚沢部町	20	農家, 振興局職員, JA職員, 役場職員を対象にしたサツマイモの手掘り収穫体験および機械収穫の見学を行い, 研究成果の普及を図った。
檜山管内さつまいも貯蔵視察(主催)	12/19	厚沢部町	10	農家, 振興局職員, JA職員, 役場職員を対象にサツマイモの冬期間の貯蔵状況について見学を行い, 研究成果の普及を図った。

(4) 普及組織及び振興局との連絡会議等共催および参加

会議等名称	回数	開催日
渡島地域農業技術支援会議	14	4/13、5/12、6/1、7/12、6/24、9/27、10/11、11/9、12/8、12/14、12/16、1/24、1/31、2/23
檜山地域農業技術支援会議	14	4/27、5/30、6/27、6/28、7/4、7/7、9/13、10/12、12/7、12/12、12/20、1/26、2/21、2/22
道南地域農業技術センター連絡会	3	4/19、10/6～10/7、1/12
渡島管内稲作担当者会議	4	4/25、7/27、11/15、2/8
檜山業務連携会議*	1	5/30
渡島業務連携会議*	1	6/1
若手・中堅職員の意見情報交換会**	1	10/20-21

*渡島農業改良普及センター主催、**道南農試技術普及室主催

5. マスコミ対応

取材機関・者	取材内容	対応者	放映、掲載
HTB 北海道テレビ 報道情報局 社会情報部、所属:株式会社 三新 氏名:長谷川 美江	いちご品種「けんたろう」について、1)名前の由来は?2)どこで主に出荷?今年の出来栄は?3)どこで購入、食べることができるのか?	中住晴彦	6/8(水)16:20すぎ 情報番組「イチオシ!」の天気コーナー
「日経ヘルス」8月号の取材	「あずき水飲むだけダイエット」の監修	加藤 淳	日経ヘルス2016年8月号および「NIKKEI STYLE」(http://style.nikkei.com/)の「WOMAN SMARTチャンネル」8月～
FMいるか パーソナリティ 山形敦子	道南農試公開デーのお知らせ、道南農試赴任に当たっての抱負	加藤 淳	FMいるか「暮らしのつづれおり」8/2 10:45～11:00
北海道新聞函館支社 記者 小坂真希	これまでの研究経歴と豆の研究に関する経歴紹介。道南農試公開デーにおける取組。道南農試での新たな目標。道南農業の発展へ道南農試の方向性。	加藤 淳	北海道新聞(道南版)8/7道南版「日曜トーク」欄
日本農業新聞 函館新聞	道南農試公開デーのイベントの内容や来客状況	場職員	日本農業新聞8/15(北海道版)、函館新聞8/13(道南ネット北斗版)
FMいるか パーソナリティ 山形敦子	「2016国際マメ年」のお知らせ 豆類の健康機能性に関する紹介	加藤 淳	FMいるか「人ネットワーク」10/6 11:10～11:40
北海道新聞 函館新聞	理事長表彰受賞内容。32作物75種の原因特定、ネギ葉枯病・カボチャ疫病等7病害の防除法確立、3病害の減農薬防除法開発、道内分離植物病原菌167菌株のジーンバンク貯蔵。	三澤知央	北海道新聞11/6、南風(道南面) 函館新聞10/19
STVリポーター 宇都宮庸子	番組内企画「黒豆特集」、黒豆の成分と健康の関係、黒豆茶の簡単な作り方、お茶を出した後の黒豆の活用方法について	加藤 淳	STVどさんこワイド(ときめき野菜通信)「どさんこワイド」12/19 16:00～16:30で約15分間
函館新聞	大型世代促進温室での試験内容と稲刈りの様子。	尾崎洋人 佐々木盛久 竹内達也 順西奈緒	函館新聞12/28
フジテレビ関連番組制作会社(株)NEXTEP ディレクター 御船 慧	番組内企画「太りにくい料理コーナー」、小豆カレーが紹介され、小豆の成分と肥満予防効果について説明、小豆の吸水機構について説明(直炊きで煮える理由)	加藤 淳	番組名:「その原因、Xにあり!」(フジテレビ)1/13、19:00～19:57

(続き)

取材機関・者	取材内容	対応者	放映、掲載
函館新聞	「ベビーリーフすくすく」、道南農試冬季栽培試験、現在実施中の「冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系の確立」、ベビーリーフの栽培試験	高濱雅幹	平成29年1月23日(月)函館新聞
北海道新聞	被取材者の研究紹介、冬野菜の研究経歴と内容、およびサツマイモ研究も紹介	高濱雅幹	北海道新聞 ひと道南1/25
函館新聞社 編集局報道部記者 野口賢清、日本農業新聞	厚沢部町の町民交流センターあゆみで開かれた道総研道南農試主催の第19回道南地域農業新技術発表会の内容について	場職員	函館新聞2/23 日本農業新聞3/6
TBS関連番組制作会社(株)Zプラス ディレクター 土方 教裕	被験者が1週間挑戦する「あずき水ダイエット」の監修、及び小豆の成分と肥満予防効果の解説。「同ダイエット」実施の3ルール説明。	加藤 淳	『ピラミッド・ダービー』(TBSテレビ)2/26 18:55～20:54の番組内
AIR DO 機内誌「rapora」(ラポラ)、山平 有紀(企画・編集)、三本木 香(ライター)	機内誌巻頭企画「豆特集」、道産大豆・小豆の栄養性・機能性、サラリーマン向けの豆のお勧めレシピについて	加藤 淳	AIR DO 機内誌「rapora」平成29年3月号

6. 委員会活動

(1) 情報システム委員会

① 構成：委員長；奥村 理（生産環境グループ主査（栽培環境））、委員；田澤暁子（地域技術グループ）、三澤知央（生産環境グループ）、順西奈緒（生産環境グループ）、石黒一幸（総務課）、辻 敏昭（技術普及室）

② 活動：イントラネットの管理およびホームページの更新（計23回）を行った。主な更新事項は以下のとおり。

- ア 道南農試主催行事等の案内
- イ 道南農試主催行事等の開催結果
- ウ 試験成績
- エ 作況報告

(2) 施設管理委員会

① 構成：委員長；中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、委員；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、小滝宏樹（総務課長）、渋谷美香子（総務課主査（総務））、尾崎洋人（地域技術グループ主査）、青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））、佐々木盛久

（生産環境グループ）

② 活動：第1回は平成28年4月22日に開催し、施設整備・備品整備等について検討した。第2回は平成28年5月23日に開催し、施設整備等について検討した。第3回は平成29年1月27日に開催し、要望する施設の順位付けについて検討した。

(3) 業務委員会

① 構成：委員長；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、委員；竹内達也（生産環境グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、奥村理（生産環境グループ）、三澤知央（生産環境グループ）

② 活動：4月から10月の毎週木曜日に業務委員会を開催し、作業計画の立案及び人員の配置等について協議した。

(4) 安全衛生会議

① 構成：議長；加藤 淳（場長） 議員；小滝宏樹（総務課長）、渋谷美香子（主査（総務））、日笠裕治（研究主幹）、林 哲央（労組支部長）、青木元彦（労組書記長）、竹内達哉（労組推薦）

② 活動：平成28年5月26日に安全衛生会議を開催し、職場安全衛生実施計画を決定した。実施計画に基

づき、各取組みを実施した。

(5) 図書委員会

- ① 構成：委員長；青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））、委員：石黒一幸（総務課）、順西奈緒（生産環境グループ）、田澤暁子（地域技術グループ）、奥村 理（生産環境グループ）、猫塚雅彦（協力、技術普及室主任普及指導員）
- ② 活動：集報等の希望配布のとりまとめ、受け入れ図書・資料の整理を行った。

(6) 研修・参観案内委員会

- ① 構成：委員長；日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、委員；石黒一幸（総務課）、竹内達哉（生産環境グループ）、高濱雅幹（地域技術グループ）、奥村理（生産環境グループ主査（栽培環境））、林 哲央（地域技術グループ主査（地域支援））、辻 敏昭（協力、技術普及室主任普及指導員）
- ② 活動：
平成28年6月10日に参観案内資料（圃場配置図、試験概要など）をもとに場員、振興局及び普及センター職員が参加して、参観案内リハーサルを実施した。

(7) 土壌病害虫場内対策検討委員会

- ① 構成：委員長；丹野久（研究部長）、委員；小滝宏樹（総務課長）、日笠裕治（生産環境グループ研究主幹）、中住晴彦（地域技術グループ研究主幹）、渋谷美香子（主査（総務））、青木元彦（主査（病虫））、竹内達哉（（生産環境グループ主任））、オザワ（加藤淳（場長））
- ① 活動：8/4、9/1、9/14で委員会を開催。新たな場内駐車場を、はさ掛けハウス横に整備することとし、そのための砂利敷きや照明工事の内容と洗車場・駐車

場の完成後の土壌病害虫対策の変更案を作成し、庁内会議で検討することとした。

(8) 場代表連絡員等

1) 情報システム運営委員

- ① 委員：奥村 理（生産環境グループ主査（栽培環境））
- ② 活動：情報システムの運営管理のために、農業研究本部との連絡調整、場内IPアドレスの管理等の業務を行った。

2) 植物遺伝資源連絡員

- ① 構成：委員；尾崎洋人（地域技術グループ主査（作物））
- ② 遺伝資源の保存や調査に関する9つの事項が報告され、了承された。遺伝資源の緊急増殖では水稻は中央農試水田農業 G で H29 のみ実施し、大豆といんげんまめは H29 以降遺伝資源部で対応する。協議事項では遺伝資源提供要領の見直しについて意見交換を行った。

3) 北農連絡員

- ① 委員：奥村 理（生産環境グループ主査（栽培環境））
- ② 活動：北農の発行などについて、北農会との連絡調整を行った。

4) 図書連絡委員

- ① 委員：青木元彦（生産環境グループ主査（病虫））
- ② 活動：道総研農試報告、集報、資料について、配布希望のとりまとめを行った。

7. 場内研修

研修等名	主な内容	開催日	受講者数
競争的資金等不正防止研修	パワーポイントにより「研修費の適切な執行と健全な研究活動に向けて」説明	4/18	20
契約職員研修	契約職員による休暇処理の手続き、給与明細の見方	5/13	12
情報セキュリティ対策及び飲酒運転根絶に関する職場研修	情報セキュリティ対策の徹底及び飲酒運転根絶に向けた取組等の説明、啓発用DVD	1/11	22
健康づくりセミナー	健康診断結果データの見方、メタボリックシンドロームの恐ろしさなどを本部保健師が分かりやすく解説	1/25	20
日本土壌肥料学会佐賀大会予演会	立茎アスパラガス栽培とハクサイ越冬後の施肥法について 林 哲央・田中良典・三浦 洋・田中将之・沼下利広・佐藤隆行・小坂善仁	9/16	3
北海道園芸研究談話会予演会	1. サツマイモ切り苗育苗の栽植および採苗条件が苗生産に及ぼす影響 高濱雅幹・野田智昭・植野玲一郎・宗形信也・大久保進一・尾崎洋人・中住晴彦 2. 湛液型簡易養液栽培における培地の種類がリーフレタスの生育に及ぼす影響 大久保進一・高濱雅幹・日笠裕治・尾崎洋人・中住晴彦	12/1	5
葉菜類の養液栽培(イタリア、ミラノ大学 SILVANA NICOLA 教授)	「Advanced soilless growing systems for standard, safe and premium leafy vegetable production」 イタリアにおける葉菜類の養液栽培の試験成績について、収量性、品質などの紹介	12/13	9
近年の良食味米育種、開花期耐冷性の簡易検定法開発および品質変動要因の解明	1. 良食味米育種 2. 開花期耐冷性の簡易検定法開発 3. 品質変動要因の解明 1)うるち米 2)もち米 3)もち米の隔離距離と交雑率	2/22	17

表の上段は総務、下段は研究

8. 表彰・資格

受賞者氏名	表彰事項	受賞年月日
三澤 知央	北海道立総合研究機構理事長表彰 野菜類に発生した新病害の同定と防除対策の確立に関する研究および道産植物病原菌の安定保存への貢献	平成28年7月1日

9. 外部委員会等への参加

(1) 学会役員・委員

名 称	機関名	氏名
日本土壌肥料学会 代議員	日本土壌肥料学会	加藤 淳
日本食品科学工学会 代議員	日本食品科学工学会	加藤 淳
北海道フードマイスター検定 運営委員会 副委員長	札幌商工会議所	加藤 淳
ノーステック財団「研究開発助成事業」専門委員	北海道科学技術総合振興センター	加藤 淳
日本作物学会評議員	日本作物学会	丹野 久
日本水稲品質・食味研究会副会長	日本水稲品質・食味研究会	丹野 久
渡島スマートアグリ事務局委員	渡島スマートアグリ事務局(渡島総合振興局)	丹野 久
北海道科学技術審議会 函館地域懇談会委員	北海道経済部産業振興局科学技術振興室	丹野 久
檜山振興局農業農村整備事業環境情報協議会委員	檜山振興局農村振興課	丹野 久
園芸学会2017北海道大会実行委員会委員	園芸学会2017北海道大会実行委員会	中住晴彦
日本土壌肥料学会代議員	日本土壌肥料学会	日笠裕治
Journal of Plant Studies 編集委員	Canadian center of science and education	三澤知央
生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)世話人	生態と防除研究会(植物病害カンファレンス)	三澤知央
日本植物病理学会 植物病害診断研究会 幹事	日本植物病理学会	三澤知央

(2) 技術審査

審査名称等	相手方	月日	担当者	審査内容
論文審査	北日本病害虫研究会	5月～9月	青木元彦	コナガの薬剤感受性低下に関する論文を審査した
論文審査	北日本病害虫研究会	5月～9月	青木元彦	コナガの薬剤感受性低下と有効薬剤に関する論文を審査した
「研究開発助成事業」審査委員会	ノーステック財団	6月～7月	加藤 淳	イノベーション創出研究支援事業に係る技術審査(書面審査)
論文審査	Soil Science and Plant Nutrition 誌	8月～9月	林 哲央	緑肥跡地の土壌窒素の変化に関する論文を審査した
論文審査	African J of Agric Res	4月	三澤知央	Rhizoctonia菌に関する論文を審査した
論文審査	北日本病虫研究報	5月	三澤知央	キュウリ病害に関する論文を審査した
論文審査	Plant Disease	6月	三澤知央	Stemphylium属菌に関する論文を審査した
論文審査	J Plant Physiology & Pathology	7月	三澤知央	Stemphylium属菌に関する論文を審査した
論文審査	An International Journal of Plant Research	11月	三澤知央	センチュウに関する論文を審査した
論文審査	African Journal of Biotechnology	11月	三澤知央	インゲンマメ病害に関する論文を審査した
論文審査	Plant Disease	12月	三澤知央	Rhizoctonia菌に関する論文を審査した
論文審査	Journal of Plant Studies	2月	三澤知央	ウイルス病に関する論文を審査した

(3) 振興局対応

名 称	相手方	開催日	出席者	開催地
渡島スマートアグリ研究会事務局会議(1回目)	渡島総合振興局	5/23	丹野 久	北斗市
渡島スマートアグリ研究会「北斗地域プロジェクトチーム」検討会	渡島総合振興局	6/13	丹野 久	北斗市
渡島スマートアグリ研究会事務局会議(2回目)	渡島総合振興局	7/6	丹野 久	北斗市
檜山振興局道営農業農村整備事業環境情報協議会	檜山振興局環境情報協議会	8/2	丹野 久	厚沢部町
渡島スマートアグリ研究会「北斗地域プロジェクトチーム」検討会	渡島総合振興局	9/8	丹野 久	北斗市
渡島スマートアグリ研究会事務局会議(3回目)	渡島総合振興局	9/8	丹野 久	北斗市
渡島スマート農業推進セミナー	渡島総合振興局	2/21	丹野 久	北斗市

(4) 展示会等への出展

名 称	出展日	イベント名称	開催地	内 容
白米になるまでの工程を知ろう	8/27	はこだて国際科学祭「科学屋台」	函館市	道南農試公開デーを、事務局を公立はこだて未来大学が行っているはこだて国際科学祭のプレイベントとしても実施するとともに、五稜郭タワーでの科学屋台のイベントに参加した。
道南産さつまいもペースト試食	9/6	北海道・青森県食材見本市(兼、第6回世界料理学会in HAKODATE)	函館市	北海道産さつまいもの認知度を高める目的で、来場者に道南農試産さつまいものペースト試食を実施
焼き芋試食会	10/15	食べる・たいせつフェスティバル2016 in 函館	函館市	北海道産さつまいもの認知度を高める目的で、来場者に道南農試産さつまいもの試食を行い、併せてアンケート調査による認知度調査を実施。
道南産干しいも、ペースト試食	2/28	北海道さつまいも懇話会情報交換会	江別市	北海道産さつまいもの認知度を高める目的で、来場者に道南農試産さつまいもの干しいもおよびペースト試食を実施

V 自己点検

1. 平成28年度計画に係る項目別実績の自己点検結果

連番	項目番号	項目	件数	備考
1	1	研究ニーズ調査によるニーズ把握件数 (H28)	0	H28
4	1	各機関へ直接寄せられたニーズ把握件数 (H28)	5	H28 【別途調査】
7	1	次年度新規課題となったニーズ件数 (H28)	0	H28 【別途調査】
10	2	「H29研究展開方向」に定める研究課題数 (H28)	0	H28 【研究課題データベース】
13	6	重点研究課題数 (H28)	1	H28 【研究課題データベース】
14	6	うちH28新規重点研究課題数	0	H28 【研究課題データベース】
15	6	うち企業と連携した課題数	1	H28 【研究課題データベース】
22	7	経常研究課題数 (H28)	5	H28 【研究課題データベース】
23	7	うちH28新規経常研究課題数	0	H28 【研究課題データベース】
28	8	道受託研究課題数 (H28)	0	H28 【研究課題データベース】
29	8	うちH28新規道受託研究課題数	0	H28 【研究課題データベース】
34	8	公募型研究への応募課題数 (H28)	4	H28
38	8	公募型研究課題数 (H28)	4	H28 【研究課題データベース】 ※赤は実数
39	8	うちH28新規公募型研究課題数	1	H28 【研究課題データベース】
44	8	公募型研究の管理法人実施件数 (H28)	2	H28
51	8	うちH28新規一般共同研究課題数	0	H28 【研究課題データベース】
60	8	うちH28新規受託研究課題数	0	H28 【研究課題データベース】
65	8	受託研究による外部資金獲得金額 (H28)	5,480	H28 【研究課題データベース】
80	10	研究会等への延べ参加者数 (H28)	0	H28
86	11	普及組織との連絡会議等開催件数 (H28)	24	H28
100	12	うち特許権等放棄・権利消滅件数 (H28)	0	H28
113	12	登録品種数 (H28)	3	H28
114	12	うち新規登録品種数 (H28)	0	H28
115	12	うち育成者権登録抹消・存続期間満了品種数 (H28)	0	H28
122	12	ノウハウ指定された技術数 (H28)	0	H28
123	13	特許等の実施許諾契約件数 (H28)	0	H28
124	13	登録品種等の利用許諾件数 (H28)	5	H28
129	14	課題対応型支援の実施件数 (H28)	0	H28
130	14	技術審査件数 (H28)	1	H28
134	14	技術開発派遣指導件数 (H28)	0	H28
137	14	技術開発派遣指導派遣日数 (H28)	0	H28
140	15	インキュベーション施設の貸与日数 (H28)	0	H28
143	15	インキュベーション施設の利用企業数 (H28)	0	H28

連番	項目番号	項目	件数	備考
146	16	建築性能評価の実施件数 (H28)	0	H28
149	16	試験体の製作件数 (H28)	0	H28
152	16	構造計算適合性判定の実施件数 (H28)	0	H28
155	17	研修会・講習会等の開催件数 (H28)	5	H28
158	17	研修会・講習会等の延べ参加者数 (H28)	117	H28
161	17	研修者の延べ受入人数 (H28)	10	H28
162	17	うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数 (H28)	0	H28
163	17	うち大学等の学生の受入人数 (H28)	0	H28
170	18	連携協定等の締結件数 (H28) ※通算	0	H28
171	18	うち事業を伴った連携協定等の件数 (H28) ※通算	0	H28
172	18	連携協定等のうちH22以降に締結したものの件数 (H28) ※通算	0	H28
173	18	うち事業を伴った連携協定等の件数 (H28) ※通算	0	H28
174	18	H28新規締結件数 (H28)	0	H28
185	19	道関係部との連絡会議等の開催件数 (H28)	2	H28
188	19	道からの研究ニーズ把握件数 (H28) ※研究ニーズ調査	0	H28※項目No. 1 内数
189	19	うち対応したニーズ件数 (H28) ※研究ニーズ調査	0	H28
194	19	道からの研究ニーズ把握件数 (H28) ※各試験場等直接	1	H28【別途調査】※項目No1内数
195	19	うち対応したニーズ件数 (H28) ※各試験場等直接	0	H28【別途調査】
200	19	市町村との意見交換等の開催件数 (H28)	2	H28
203	19	市町村からの研究ニーズ把握件数 (H28) ※研究ニーズ調査	0	H28※項目No.1内数
204	19	うち対応したニーズ件数 (H28) ※研究ニーズ調査	0	H28
209	19	市町村からの研究ニーズ把握件数 (H28) ※各試験場等直接	0	H28【別途調査】※項目No.1内数
210	19	うち対応したニーズ件数 (H28) ※各試験場等直接	0	H28【別途調査】
215	21	「H28研究展開方向」に定める研究資源(人)の投入人数	0	H28【研究課題データベース】
218	21	「H28研究展開方向」に定める研究資源(金)の投入金額	0	H28【研究課題データベース】
221	24	利用者意見把握調査の回答数 (H28)	0	H28
222	24	うち業務の改善意見数 (H28)	0	H28
223	24	うち改善意見に対する対応件数 (H28)	0	H28
230	24	道民意見把握調査の回答数 (H28)	141	H28
231	24	うち業務の改善意見数 (H28)	8	H28
232	24	うち改善意見に対する対応件数 (H28)	2	H28
239	24	関係団体等との意見交換等の開催件数 (H28)	6	H28
242	26	階層別研修(研究部長級・研究主幹級・主査級・新規採用職員)の開催回数 (H28)	0	H28
245	26	階層別研修(研究部長級・研究主幹級・主査級・新規採用職員)の受講者数 (H28)	1	H28

連番	項目 番号	項 目	件数	備考
248	26	研究開発能力向上研修の開催回数 (H28)	0	H28
251	26	研究開発能力向上研修の受講者数 (H28)	0	H28
254	26	国内研修Ⅱ (外部講師招へいによる職場内研修) の開催回数	0	H28
260	26	H28職員研究奨励事業課題数	0	H28
261	26	うち業績型研究課題数	0	H28
262	26	うちシーズ探索型研究課題数	0	H28
263	26	うち技術支援型研究課題数	0	H28
272	26	海外研修の派遣件数 (H28)	0	H28
275	26	海外研修の派遣人数 (H28)	0	H28
278	26	国内研修Ⅰの派遣件数 (H28)	0	H28
281	26	国内研修Ⅰの派遣人数 (H28)	0	H28
284	26	国内研修Ⅱの派遣件数 (H28)	2	H28
287	26	国内研修Ⅱの派遣人数 (H28)	2	H28
290	29	寄附金の受入件数 (H28)	0	H28
293	29	寄附金の受入金額 (H28)	0	H28
296	38	視察者・見学者の受入件数 (H28)	20	H28
299	38	視察者・見学者の延べ受入人数 (H28)	281	H28
302	38	出前授業の実施件数 (H28)	2	H28
303	38	道民向けイベントの開催件数 (H28)	1	H28
304	38	うち公開デー等の開催件数 (H28)	1	H28
309	38	道民向けイベントの延べ参加者数 (H28)	165	H28
310	38	うち公開デー等の延べ参加者数 (H28)	165	H28
314	38	国際協力事業等への協力件数 (H28)	0	H28
317	40	災害等に関係した道受託研究等件数 (H28)	0	H28
320	40	災害等に関係した技術指導件数 (H28)	0	H28
323	40	災害等に関係した委員派遣件数 (H28)	0	H28
326	42	グリーン購入の金額 (H28)	136	H28

付表 1. 作物標準栽培法の概要

各試験に共通する水稲、畑作物についての当場の標準栽培法は、下記のとおりであるが、特殊なものについては各試験ごとに記載する。

作物名	栽培方法	苗代種類	選 種	播 種 期	苗 代 (1 m ²)		
					基 肥	追 肥	播 種 量
水 稻	中苗栽培	冷 床	塩水選 (1.06)	4月中下旬	N = 5.6g	N=1g/箱	500g散播
	稚苗栽培				P ₂ O ₅ = 11.1g K ₂ O = 9.4g	N=1g/箱	1kg散播

作物名	栽培方法	施肥量(kg/a)			移植期	畦幅×株間 (cm)	m ² 当 株数	一株 本数	病虫 防除
		基 肥	追 肥	同時期					
水 稻	中苗栽培	N = 0.8	—	—	5月下旬	33×12	25株	3 ~ 4	3回
	稚苗栽培	P ₂ O ₅ = 1.0 K ₂ O = 0.7							

備考 除草剤：初中期一発剤フロアブル50ml/a、後期は発生に応じて適時実施。
堆 肥：100kg/a。

作物名	施 肥 量 (kg/a)					畦幅×株間 (cm)	播種期 (月日)	1 株 本数	中耕	除草	防除
	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO						
大 豆	0	0.15	1.17	0.75	0.35	60×20	5.13	2本	1回	3回	6回
小 豆	0	0.30	1.17	0.75	0.35	60×20	6.4	2本	1回	3回	6回

付表 2. 土壤の理化学的特性

土壤条件：中粗粒褐色低地土(一部礫質褐色低地土)

(1) 水田

層 厚	国際法粒径組成 (%)					三相分布 (%)			
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性	固相	液相	気相	孔隙率
0~12cm	23.9	40.2	23.3	12.6	L	44.7	45.7	9.6	55.3
~21	19.1	40.3	18.7	21.9	CL	49.2	49.2	3.9	53.1
~35	6.1	37.7	40.2	16.1	CL	49.1	37.4	13.5	50.9

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交換 容 量 (me/100g)	リン酸吸 収係数
	H ₂ O	KCL						
0~12cm	5.9	4.9	2.2	0.18	12.2	1.0	18.0	846
~21	5.1	4.0	1.2	0.12	9.7	10.2	17.6	742

(2) 畑土壤

層 厚	国際法粒径組成 (%)					容 積 重 (g/100cc)	孔隙率 (%)	有効態 リン酸 (mg/100g)	リン酸 吸収 係数
	粗砂	細砂	シルト	粘土	土性				
0~14cm	12.1	48.4	24.7	14.8	L	129	50.3	45.5	827
~30	0.5	37.6	45.2	16.7	CL	129	49.9	43.5	1374

層 厚	pH		T-C (%)	T-N (%)	C/N	Y 1	塩基交 換容量 (me/100g)	交換性塩基 (me/100g)		
	H ₂ O	KCL						Ca	Mg	K
0~14cm	5.3	4.6	2.3	0.19	12.2	3.6	22.5	9.4	1.5	1.0
~30	5.0	5.0	1.0	0.11	9.5	0.7	27.7	18.2	3.5	0.5

平成28年度 道南農業試験場年報

平成29年 9月

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
農業研究本部
道南農業試験場

〒041-1201 北海道北斗市本町680番地

TEL (0138)77-8116

FAX (0138)77-7347

E-mail donan-agri@hro.or.jp

ホームページ <https://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/dounan/index.html>
